長野県松本市

YOKOTA

横田遺跡

－第３次発掘調査報告書－

OHMURATSUKADA

大村塚田遺跡

－第３次発掘調査報告書－

2020.3

松本市教育委員会

例　言

1　本書は、平成28年9月1日～平成29年9月29日に実施された、長野県松本市横田三丁目193番1号ほかに所在する横田遺跡第3次と大村塚田遺跡第3次の発掘調査報告書である。

2　本調査は、松本市惣社土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査であり、土地区画整理組合より松本市が委託を受け、松本市教育委員会が発掘調査、整理・報告書作成を行ったものである。

3　本書の執筆は、以下のとおりである。

第Ⅰ章第1節・第Ⅳ章：三村竜一、第Ⅰ章第2節・第Ⅲ章第1節：小山奈津実、第Ⅱ章：壬生量子、第Ⅲ章第2節：小山奈津実・山本紀之、第Ⅲ章第3節1：古林舞香・山本紀之、第Ⅲ章第3節2・4：古林舞香、第Ⅲ章第3節3：白鳥文彦

4　本書作成にあたっての作業分担は以下のとおりである。

遺物洗浄・注記　内田和子・佐々木正子・洞澤文江・三澤栄子

遺物保存処理・接合復元　内田和子・中澤温子・洞澤文江・三澤栄子

遺物実測・トレース　（土器、土製品）久保田瑞穂・竹内直美・直井槙之介

（石器）白鳥文彦・直井槙之介・直井知導・原田健司

（金属製品）古幡大治朗・洞澤文江・前沢里江

遺構図整理・トレース　荒井留美子

写真撮影　（遺構）小山奈津実・高山いず美・古林舞香・三村竜一・山口祥子・山本紀之

（空中写真）㈱みすず綜合コンサルタント松本営業所　（遺物）宮嶋洋一

一覧表作成　（遺構）荒井留美子・小山奈津実・山本紀之　（土器、土製品）古林舞香・山本紀之

（石器）白鳥文彦　（金属製品）古林舞香・洞澤文江

DTP　荒井留美子・小山奈津実・白鳥文彦・直井槙之介・古林舞香・壬生量子

5　本書で用いた略記は次のとおりである。

第○号住居址→○住、第○号竪穴建物址→竪○、第○号土坑→土○、第○号ピット→P○、第○号流路→流路○

6　図中で使用した方位は真北を示す。また、遺構図中に示した国家座標値（世界測地系・第8系）は、東北太平洋沖地震後の補正値である。

7　図類の縮尺は、遺構：1/40・1/80、土器：1/4、土製品：1/1・1/2、石器：4/5・1/3、金属製品：1/1・1/2で掲載した。写真図版の縮尺は、遺構：不同、遺物（俯瞰）：不同、遺物（平置き）：土器は1/1・1/2、土製品は1/1、石器は4/5・1/3、金属製品は不同で掲載した。

8　本書では以下のものをスクリーントーンで表した。

遺構：焼土・被熱範囲　　遺物：タール・煤　　剥離

9　遺構図の各々の住居址及び竪穴建物址は北を天として掲載した。

10　土層色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局 監修・財団法人日本色彩研究所 色票監修『新版 標準土色帖』に準拠している。

11　土器実測図の断面白抜きは縄文土器・弥生土器・土師器・土師質土器、黒塗りは須恵器・灰釉陶器・白磁を示す。

12　本調査の出土遺物および写真・実測図等の記録類は、松本市教育委員会が管理し、松本市立考古博物館（〒399-0823 長野県松本市中山3738-1　TEL 0263-86-4710　FAX 0263-86-9189）に保管している。

目　次

例言
目次
第Ⅰ章　調査経緯
　第１節　調査経過……5
　第２節　調査体制……6
第Ⅱ章　遺跡の環境
　第１節　地理的環境……7
　第２節　歴史的環境……7
　第３節　過去の調査成果……10
第Ⅲ章　調査成果
　第１節　調査の概要……11
　第２節　遺構
　　1　竪穴住居址、竪穴建物址……19
　　2　土坑、ピット……20
　　3　流路……21
　第３節　遺物
　　1　土器・陶磁器……31
　　2　土製品……38
　　3　石器……38
　　4　金属製品……42
第Ⅳ章　総括……44
写真図版
報告書抄録

図目次

第１図　調査地の位置と周辺遺跡
第２図　事業対象地と調査区の範囲
第３図　調査地の標準土層模式図
第４図　調査区全体図
第５図　横田遺跡　A・B区　全体図
第６図　横田遺跡　C・D区　全体図
第７図　横田遺跡　E区・1tr　全体図
第８図　大村塚田遺跡　A区・1tr　全体図
第９図　大村塚田遺跡　B区・4tr　全体図
第10図　横田遺跡　竪穴住居址、竪穴建物址
第11図　横田遺跡　土坑
第12図　横田遺跡　流路
第13図　大村塚田遺跡　竪穴建物址
第14図　大村塚田遺跡　土坑
第15図　横田遺跡　土器・陶磁器
第16図　大村塚田遺跡　土器・陶磁器
第17図　横田遺跡　土製品
第18図　大村塚田遺跡　土製品
第19図　横田遺跡　石器
第20図　大村塚田遺跡　石器
第21図　横田遺跡　金属製品
第22図　大村塚田遺跡　金属製品

表目次

第１表　周辺遺跡一覧表
第２表　横田遺跡　竪穴住居址一覧表
第３表　横田遺跡　竪穴建物址一覧表
第４表　横田遺跡　土坑一覧表
第５表　横田遺跡　ピット一覧表
第６表　大村塚田遺跡　竪穴建物址一覧表
第７表　大村塚田遺跡　土坑一覧表
第８表　大村塚田遺跡　ピット一覧表
第９表　横田遺跡　土器・陶磁器観察表
第10表　大村塚田遺跡　土器・陶磁器観察表
第11表　横田遺跡　土製品一覧表
第12表　大村塚田遺跡　土製品一覧表
第13表　横田遺跡　石器一覧表
第14表　大村塚田遺跡　石器一覧表
第15表　横田遺跡　金属製品一覧表
第16表　大村塚田遺跡　金属製品一覧表

写真図版目次

写真図版１　調査地遠景
写真図版２～11　遺構・遺物

第Ⅰ章　調査経緯

第1節　調査経過

松本市惣社土地区画整理組合（以下「組合」という。）により松本市横田三丁目193番1号ほかで土地区画整理事業が計画されたが、予定地の一帯は周知の埋蔵文化財包蔵地である横田遺跡・大村塚田遺跡・惣社遺跡に該当していた。そのため、松本市教育委員会（以下「市教委」という。）では平成28年3月15日～3月25日に事業地内で試掘確認調査を実施した。その結果、縄文時代の遺物を検出し、対象地内の広範囲に遺跡が残存していることが確認された。この結果に基づき事業者である組合と協議を行い、遺跡が破壊される範囲について平成28・29年度に発掘調査を実施し、記録保存を図ることとなった。発掘調査とこれに係る事務処理については市教委が実施することとし、組合と松本市の間に平成28年度は平成28年9月1日付、平成29年度は平成29年4月3日付で発掘調査業務の委託契約が締結された。

現地での発掘調査は、平成28年9月1日～平成29年3月24日（平成28年度分）、平成29年4月20日～9月29日(平成29年度分)に実施した。各年度の調査終了後、平成29年3月24日付(平成28年度分)、平成30年3月27日付（平成29年度分）で組合に完了報告書を提出した。

また、平成29年10月2日付で埋蔵物発見届を松本警察署に提出し、10月24日付で県教委より埋蔵物の文化財認定及び出土品の帰属についての通知を受けた。それを受け平成30年4月6日付で出土文化財譲与申請書を県教委に提出し、4月11日付で出土文化財の譲与についての通知を受けた。

本発掘調査に係る文書等の記録は以下のとおりである。

＜平成27年度＞

3月3日　「公共事業に伴う農地転用届書（一時転用）」を農業委員会に提出

3月15日～3月25日　市教委が試掘確認調査実施

＜平成28年度＞

9月1日　組合と松本市が埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結

9月1日～3月24日　市教委が発掘調査実施

3月24日　松本市が組合に完了報告書提出

＜平成29年度＞

4月3日　組合と松本市が埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結

4月20日～9月29日　市教委が発掘調査実施

10月2日　「埋蔵物発見届」「埋蔵文化財保管証」を市教委が松本警察署、県教委に提出

10月24日　「文化財の認定及び県帰属について」県教委から市教委に通知

3月27日　松本市が組合に完了報告書提出

＜平成30年度＞

4月2日　組合と松本市が埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結

4月6日　「出土文化財譲与申請書」を市教委が県教委へ提出

4月11日　「出土文化財の譲与について」県教委から市教委に通知

3月12日　松本市が組合に完了報告書提出

＜令和元年度＞

4月1日　組合と松本市が埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結

第２節　調査体制

＜平成 28 年度＞

調査団長　赤羽郁夫（松本市教育長）

調査担当　三村竜一（埋蔵文化財担当係長）、山本紀之（嘱託）

事務局　松本市教育委員会文化財課

木下守（課長）、直井雅尚（埋蔵文化財担当係長）、櫻井了（主査）、吉見寿美恵（嘱託）

＜平成 29 年度＞

調査団長　赤羽郁夫（松本市教育長）

調査担当　小山奈津実（主事）、髙山いず美（嘱託）、山口祥子（同）、古林舞香（同）

事務局　松本市教育委員会文化財課

大竹永明（課長）、三村竜一（埋蔵文化財担当係長）、林祥平（主事）、吉見寿美恵（嘱託）

＜平成 30 年度＞

調査団長　赤羽郁夫（松本市教育長）

報告書担当　三村竜一（埋蔵文化財担当係長）、小山奈津実（主事）、山本紀之（研究専門員）、古林舞香（嘱託）

事務局　松本市教育委員会文化財課

大竹永明（課長）、三村竜一（埋蔵文化財担当係長）、百瀬耕司（主査）、吉見寿美恵（嘱託）

＜令和元年度＞

調査団長　赤羽郁夫（松本市教育長）

報告書担当　三村竜一（埋蔵文化財担当係長）、原田健司（主事）、小山奈津実（同）、山本紀之（研究専門員）、白鳥文彦（嘱託）、壬生量子（同）、古林舞香（同）

事務局　松本市教育委員会文化財課

大竹永明（課長）、竹内靖長（埋蔵文化財担当係長）、百瀬耕司（主査）、吉見寿美恵（嘱託）

＜調査員＞

田中正治郎、原明芳、邊見涼、宮嶋洋一

＜発掘協力者＞

芦澤雅量、今井文雄、太田行信、金井秀雄、川崎勝英、黒崎燹、小岩井洋、小林伸一、関口滋、関谷昌也、茅野信彦、直井知導、長岩千晴、中村明、西村一敏、林秋好、降籏弘雄、古屋美江、待井正和、宮澤昭敬、百瀬二三子、百瀬泰宏、柳さおり、矢野芳徳、矢満田伸子

＜整理協力者＞

阿形文、荒井留美子、市川二三夫、内田和子、柏原佳子、久保田瑞恵、佐々木正子、澤柳宜子、竹内直美、竹平悦子、富岡享子、直井槙之介、直井知導、直井由加理、中澤温子、古幡大治朗、洞澤文江、前沢里江、三澤栄子、宮本章江、村山牧枝

第Ⅱ章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

横田・大村塚田遺跡の位置と地形　横田遺跡及び大村塚田遺跡は松本市街地北東の本郷地区に位置し、東山の南西麓近くの標高 600 ～ 616m 間にあり、南に薄川、西に女鳥羽川が流れる。両遺跡は隣接し、横田遺跡の北東に大村塚田遺跡がある。

松本市街地の南を西流する薄川は、入山辺地区の舟付・南方付近を扇頂として、古い扇状地を開析しながら新たな沖積扇状地を形成する。三才山付近を源流として上流域を蛇行する女鳥羽川は、山間部を扱けたのち、稲倉付近を扇頂とする沖積扇状地によって岡田・本郷地区を中心とする松本市の北部を形成しながら直線的に南下する。両遺跡の南西にある清水付近まで流れ込むと突如流路を直角に転換し、薄川と平行するように西流することで、薄川と同様に田川と合流する。薄川と女鳥羽川を成因とする二つの扇状地は、横田遺跡の南端部を蛇行したのち清水付近で女鳥羽川と合流する湯川を境に接することで、複合扇状地を形成するが、横田遺跡及び大村塚田遺跡はこの複合扇状地境界の北東部、女鳥羽川下流域の左岸に位置する。

発掘調査地の位置と地形　今回の発掘調査地は、横田遺跡の北東端部と大村塚田遺跡の南西端部をまたぐ位置にあり、女鳥羽川の左岸 550m 付近に位置する。標高 608m 付近にあり、地形は南西に向かって緩く傾斜する。東山山麓からは複数の小河川が流れ込み、調査地南東付近では近年まで付近住民の用水として使われていた大六川が先に述べた天井川である湯川と合流している。周辺は住宅街に囲まれ、北東方面の東山山腹と麓の境界には扇端地形を利用した粘土質の強い水田が一帯を占める。

第２節　歴史的環境

両遺跡が所在する本郷地区は、ほ場整備事業や各種開発事業による市街地化に伴い、近年緊急発掘調査件数が増加している。本郷地区に広がる遺跡の多くは女鳥羽川扇状地面にあり、縄文時代～平安時代の長期にわたって原始・古代社会の基盤となる集落が営まれてきた地域であったことが解明されてきた。以下、本郷地区の遺跡について、両遺跡を取り巻く周辺環境に言及しながら時代を追っていく。

旧石器時代　明確な遺構は見つかっていないが、三才山本郷山中の渋池（標高 1,115m）付近では石刃や切出形石器が採集され、火渡し遺跡からは遺構には伴わないもののナイフ形石器が出土している。

縄文時代　女鳥羽川上流域では、早期～中期にかけての土器・石器が散在するのみであるが、流路が南下し始める稲倉付近に差し掛かると遺跡数は増加していく。稲倉桜田遺跡では、松本市内では例のなかった早期末の集落址と大量の遺物が出土した。地床炉を伴う竪穴住居址の近辺には集石炉が配置され、出土した石器の中には未製品も多く、原石や微細な石片も得られていることから石器生産が行われていた集落であったことが判明した。この集落は、北西に隣接する稲倉和田遺跡へ連続すると考えられる。

中期に入ると人口の爆発的な増加に伴い遺跡の分布は南に広がりを見せ、横田や大村を中心とした扇状地一帯に集落が営まれるようになる。大村立石遺跡では竪穴住居址２軒、柳田遺跡では、ほぼ完形の釣手土器など中期の大量の土器を伴う竪穴住居址３軒や集石遺構が検出されている。後述する大村塚田遺跡では中期後葉の竪穴住居址が 46 軒検出され、大規模集落の様相を窺い知ることができる。

後・晩期になると人口は一転して減少の傾向にあり、遺跡数も急激に減少する。後期では柳田遺跡・大村立石遺跡・根利尾遺跡、晩期では柳田遺跡や原畑遺跡などで遺物のみが散見的に出土するにとどまる。

弥生時代　縄文時代晩期に続いて弥生時代前期も遺跡は希薄であるが、中期に入ると松本市内にも水稲農耕文化が及び、平坦で水の得やすい扇端部を中心に集落が繁栄するようになる。横田古屋敷遺跡では、中期後半～後期に及ぶ竪穴住居址７軒と礫床木棺墓４基が確認されている。木棺墓のうち１基は県下においても大型墓址に分類されることから上下関係の存在を示唆するような遺構であるが、階級身分を示す副葬品の発見には至っていない。大村古屋敷遺跡では狭い調査区ながらも、17 軒の後期の竪穴住居址が確認されている。

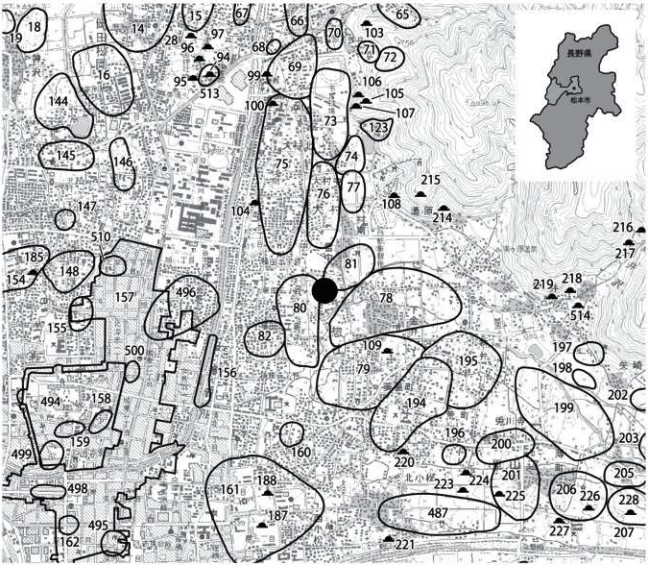
古墳時代　隣接する岡田地区と同様、本郷地区は古墳の密集地帯であり、東山の尾根には桜ヶ丘・妙義山・桃仙園など中期～後期の古墳が確認されている。大型の円墳である桜ヶ丘古墳は、県宝指定の金銅製天冠や玉類などの装身具類、甲冑や刀剣などの武器・防具類といった副葬品を主とする、中期的様相を呈した古墳である。南隣の妙義山には３基の古墳が築造され、山頂には大型円墳である１号墳、丘端西側には２基の小さな円墳が階冢的に並んでいる。１号墳・３号墳については、内部主体の遺構は検出されなかったが、２号墳では内部主体の竪穴式石室に３体の遺骸が合葬されていた。副葬品は装身具や武器・防具類のほか、馬具、須恵器杯片などで構成されており、後期に築造されたものと比定される。

これらの古墳を望む形で松本平に展開する遺跡は、弥生時代のものと概ね重複して分布する。大村前田遺跡では発見例の少ない前期の竪穴住居址が２軒発見されている。大村遺跡で見つかった後期の竪穴住居址 13 軒の中には奈良時代までの連続が考えられるものがあり、また、中世の遺物も出土していることから、古墳時代後期～奈良時代前期を中心とし、中世に至るまで有力な集落が営まれていたことが推定できる。大村古屋敷遺跡では中期～末期の竪穴住居址が 16 軒確認されるほか、大輔原遺跡では４軒見つかり、特に大村の古墳周辺部での継続的な集落の運営がみて取れる。

奈良・平安時代　この時代になると遺跡の数は急激に増加し、横田・大村・惣社の３地区をはじめ、本郷地区全体に広がりを見せる。大村古屋敷遺跡では 27 軒の竪穴住居址や、県内では２例目となる人骨と共に完形の灰釉・緑釉陶器を副葬した土坑墓が密集しており、隣接する大村前田遺跡でも３軒の竪穴住居址が見つかっている。大村遺跡では 73 軒の竪穴住居址のうち、須恵器の杯・高盤などの食膳具や土師器の煮炊具、貯蔵具のほか、円面硯など特殊な遺物が一括出土した竪穴住居址が確認された。同時代の竪穴住居址とは特異であり、共伴遺物から比較的裕福な階層の竪穴住居址と考えられる。さらに大輔原遺跡 45 軒、宮北遺跡 53 軒、火渡し遺跡４軒、原畑遺跡 22 軒など多数の竪穴住居址が確認されており、古墳時代以前と比定すると突出した数の住居が濃密に集っていたことが分かる。また、本郷高田遺跡と柳田遺跡では松本市内でも最大級の大形掘立柱建物が見つかり、１m 四方を超える柱穴を持つ。遺物では大村古屋敷遺跡から八稜鏡、大村遺跡から円面硯、大輔原遺跡から円面硯・銅製巡方など、ほかの遺跡では見られない遺物が複数確認されており、こうした特殊な遺構・遺物が各遺跡から出土する背景として、信濃国府と大村廃寺の問題がある。

まず前者の信濃国府について、本郷地区には小県郡から筑摩郡へ移転したとされる国府の推定地が惣社を中心に各所に点在しており、昭和 56 年度より５次にわたる国府調査が計画され、横田遺跡においても今回調査地の南方 500m 付近にある下の丁で発掘調査が実施されている。調査地は惣社の伊和神社から北西約 200m あまりの位置にあり、その地名が国府に関わる「下の丁」に由来するとの推測から何らかの国府関連遺構や遺物が見つかることが期待された。ところが、平安時代～現代の土師器、須恵器、陶磁器片が確認されたのみで、国府に関連する手掛かりは得られず、最有力地である惣社を含めたほかの発掘調査においても同様、国府の所在地を捉えるまでには至っていない。

次に後者の大村廃寺に関して、大村周辺では以前より古瓦が出土していたことから、古代寺院の存在が指摘されていた。大村遺跡の発掘調査においても蓮花文などの大量の古瓦や鴟尾が数点出土している。しかし、いずれも出土状況は散乱しており建物に伴わず、寺院に関する遺構は確認されていないため確定的な結論にまでは至っておらず、国府と同様に今後の調査に期待を寄せる。



第１図　調査地の位置と周辺遺跡（S=1/25,000）

第１表　周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
14	岡田松岡遺跡	78	惣社遺跡	144	狐塚遺跡	196	荒町遺跡	223	大塚１号（里山辺２号）古墳
15	松岡七日市場遺跡	79	宮北遺跡	145	但衛的場西遺跡	197	藤井山田遺跡	224	大塚２号（里山辺３号）古墳
16	トウコン原遺跡	80	横田遺跡	146	元原遺跡	198	藤井遺跡	225	針塚（里山辺４号）古墳
18	笠原遺跡	81	大村塚田遺跡	147	沢村北遺跡	199	城の内遺跡	226	古宮（里山辺１６号）古墳
19	上田遺跡	82	横田古屋敷遺跡	148	沢村遺跡	200	兎田寺遺跡	227	里山辺鶴塚（里山辺１７号）古墳
28	松岡古墳	94	水洗１号古墳	154	蛾ヶ崎遺跡	201	針塚遺跡	228	石上古墳
65	大音寺遺跡	95	水洗２号古墳	155	田町遺跡	202	北小松遺跡	487	北小松遺跡
66	本郷高田遺跡	96	水洗３号古墳	156	女鳥羽川遺跡	203	上金井遺跡	494	松本城跡
67	水洗西原遺跡	97	水洗４号古墳	157	松本城下町跡	205	里山辺鎌田遺跡	495	天神西遺跡
68	芝田遺跡	99	大屋敷１号古墳	158	丸の内遺跡	206	薄町遺跡	496	岡の宮遺跡
69	柳田遺跡	100	大屋敷２号古墳	159	大名町遺跡	207	石上遺跡	498	伊勢町遺跡
70	新湯南裏遺跡	103	桜ヶ丘古墳	160	四ツ谷遺跡	214	御母家１号（里山辺５号）古墳	499	上辰尻遺跡
71	真観寺遺跡	104	岡司塚古墳	161	県町遺跡	215	御母家２号古墳	500	片端遺跡
72	飯治洞遺跡	105	妙義山１号古墳	162	本町南遺跡	216	山田入（里山辺７号）古墳	510	堂町遺跡
73	大村遺跡	106	妙義山２号古墳	185	鍛冶塚古墳	217	里山辺大山（里山辺６号）古墳	513	水洗遺跡
74	大村古屋敷遺跡	107	妙義山３号古墳	187	県塚１号古墳	218	藤井１号（里山辺８号）古墳	514	藤井３号古墳
75	大輔原遺跡	108	桃仙閣古墳	188	県塚２号古墳	219	藤井２号（里山辺１５号）古墳		
76	大村立石遺跡	109	惣社車塚古墳	194	里山辺下原遺跡	220	荒町（里山辺１号）古墳		
77	大村前田遺跡	123	大村新切古窯址	195	新井遺跡	221	北河原屋敷（里山辺１１号）古墳		

第３節　過去の調査成果

横田遺跡　本遺跡は過去２次にわたる発掘調査が実施されており、昭和 54 年度の第１次調査では調査地内の葡萄園で須恵器片を表面採集したほか、地表下 40cm 地点で縄文時代中期の土器片３点を確認したが、明確な遺構は見つからなかった。

平成８年度の第２次調査についても、地表下１m 地点に黄褐色土の良好な土層が見られたが、遺構・遺物などは検出されず、遺跡の様相は掴めていない。

大村塚田遺跡　本遺跡においても、過去２次にわたって発掘調査が実施されている。平成２年度のほ場整備事業に伴って実施された第１次調査では、竪穴住居址 47 軒、土坑 30 基、配石１基、屋外に埋設された縄文土器６点の遺構を検出している。縄文時代中期後葉の竪穴住居址は 46 軒見つかり、うち２軒は方形の敷石住居址である。また、３軒の竪穴住居址には祭壇が設置され、石を円形に配置するものと、床面を５cm ほど高くして祭壇域とするものが見られる。竪穴住居址の床面やピットからは完形の釣手土器と有孔鍔付土器が出土するほか、整理用コンテナ 90 箱に及ぶ縄文土器と 10 箱の石器が出土している。唯一、弥生時代後期の竪穴住居址が１軒確認され、屋内には板状の石を立てた石囲炉が設置される。本遺跡は縄文時代中期後葉を中心に営まれた大集落であったと考えられ、本郷地区のみならず松本市内においても、沖積地に立地する縄文時代の遺跡としては最大級である。

一方、平成４年度の第２次調査では調査区のおよそ４分の３までが北東方向からの押し出しによる砂礫層で占められており、遺構は確認できず、縄文時代後期の土器片が 30 点ほど得られたのみであった。

参考文献

長野県東筑摩郡本郷村 1966『信濃浅間古墳』

松本市 1994『松本市史 第４巻 旧市町村編Ⅳ』

松本市 1996『松本市史 第２巻 歴史編Ⅰ 原始・古代・中世』

松本市教育委員会 1982『松本市文化財調査報告№ 25 松本市惣社宮北遺跡緊急発掘調査報告書』

松本市教育委員会 1992『松本市文化財調査報告№ 96 松本市大村塚田遺跡』

松本市教育委員会 1993『松本市文化財調査報告№ 103 松本市大村古屋敷遺跡・前田遺跡』

松本市教育委員会 1994『松本市文化財調査報告№ 112 松本市宮の上遺跡Ⅱ・原畑遺跡』

松本市教育委員会 1995『松本市文化財調査報告№ 117 松本市和田遺跡・桜田遺跡・堂田遺跡・樋渡し遺跡』

松本市教育委員会 1996『松本市文化財調査報告№ 121 針塚古墳』

松本市教育委員会 2003『松本市文化財調査報告№ 170 桜ヶ丘古墳－再整理報告書－』

松本市教育委員会 2005『松本市文化財調査報告№ 177 大村遺跡Ⅵ』

松本市教育委員会 2012『松本市文化財調査報告№ 209 横田古屋敷遺跡第１・２次』

第Ⅲ章　調査成果

第１節　調査の概要

１　調査区の設定

今回の開発予定地は約 29,000㎡に及ぶものであったが、本調査に先立ち各所に試掘トレンチを設定して、遺跡が広がる範囲を把握し、調査対象範囲を設定した。横田遺跡の調査区は、Ａ～Ｄトレンチを設定して、遺構の広がる範囲を確認したうえで、Ａ～Ｅ区と１トレンチに分けた。大村塚田遺跡の調査区は田畑・果樹園の区画を基準にＡ・Ｂ区と１～４トレンチに分けた。

２　調査の方法・手順

調査区はパワーショベルを用いて遺構検出が可能な深度まで表土を除去し、人力で遺構検出作業を進めた後、各遺構の掘り下げを行った。遺構番号は遺構の種別毎とし、竪穴住居址は横田遺跡第１次調査からの通し番号を付け、今回の調査が初の確認のため、１号からとした。その他の遺構は今回の調査で１号から通し番号を付けた。遺構測量に係る基準は国家座標（世界測地系）を用いた。調査地周辺にある街区三角点、街区多角点を基に調査地内に基準点を複数設置し、これらを基に調査区内に３ｍのグリッドを設定した。測量基準点はＸ =27,288.000、Ｙ =-45,972.000 を NS0、EW0 とした。測量は簡易遣り方測量により作成した。平面図・各遺構図・断面図は 1/20、詳細図が必要なものについては 1/10 で作成した。写真は発掘作業の各段階と遺構等の遺物出土状況及び完掘状況をフィルムカメラとデジタルカメラで撮影した。また、調査区全景はラジオコントロールヘリコプター（ラジコンヘリ）による空中写真撮影を実施した。

３　調査成果の概要

調査面積：3,644㎡（横田遺跡 2,450㎡、大村塚田遺跡 1,194㎡）

発見遺構

	横田遺跡	大村塚田遺跡
竪穴住居址	6 軒（縄文時代２軒、平安時代後期４軒）	
竪穴建物址	2 軒（平安時代後期）	4 軒（時期不明）
土坑	84 基	7 基
ピット	176 基	34 基
流路	7 条	4 条

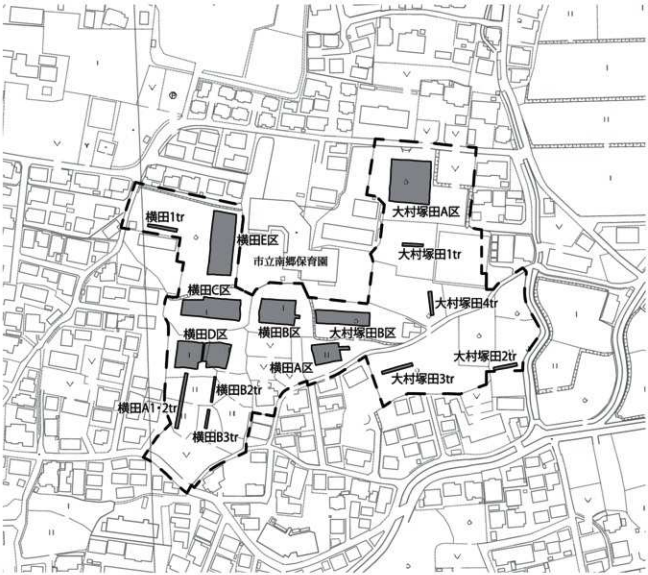
出土遺物

	横田遺跡	大村塚田遺跡
土器・陶磁器	縄文土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、白磁	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、白磁
土製品	泥面子	耳飾
石器	石鏃、石錐、削器、掻器、横刃形石器、打製石斧、凹石	石鏃、削器、掻器、砥石、凹石、楔形石器
金属製品	刀子、銭貨	釘

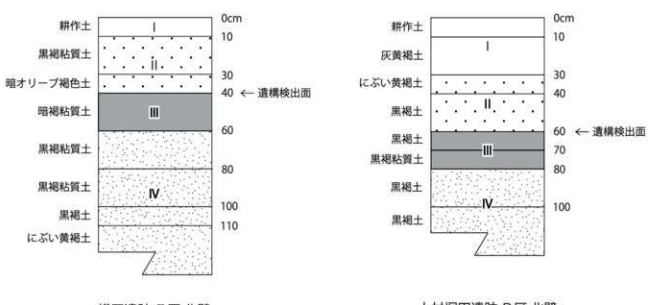
４　標準土層（第３図）

墳状の地形である調査地は、調査開始前まで田畑・果樹園であった。土層柱状図は、調査地の大半で確認された洪水性流路の影響を受けていないとみられる、横田遺跡Ｅ区北壁と、大村塚田遺跡Ｂ区北壁の２カ所で作成、観察をすることとした。

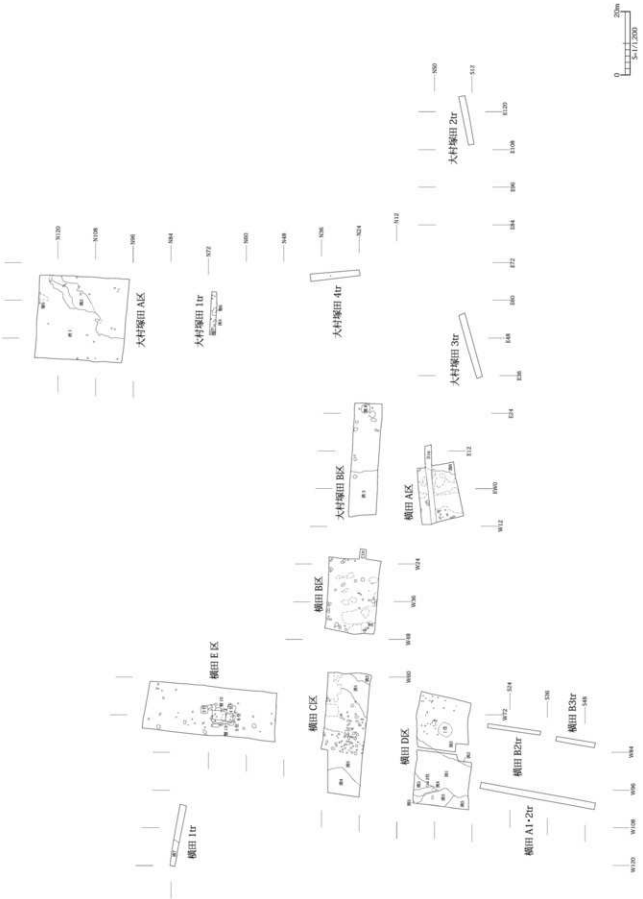
土層は大きく分けて４層に分類できるとみられる。Ⅰ層は耕作土・床土、Ⅱ層はにぶい黄褐色～黒褐色のシルト質土である。Ⅲ層は暗褐色～黒褐色の粘質土であり、遺物包含層である。Ⅳ層はにぶい黄褐色～黒褐色土で、遺物がほとんど含まれない自然堆積層とみられる。検出面はⅢ層の上面に設定した。



第２図　事業対象地と調査区の範囲（S=1/2,500）

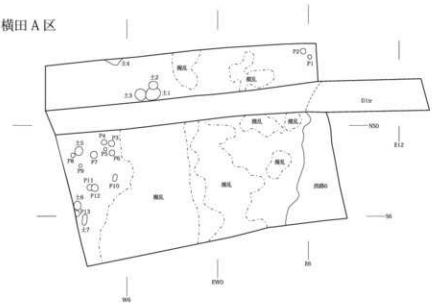


第３図　調査地の標準土層模式図

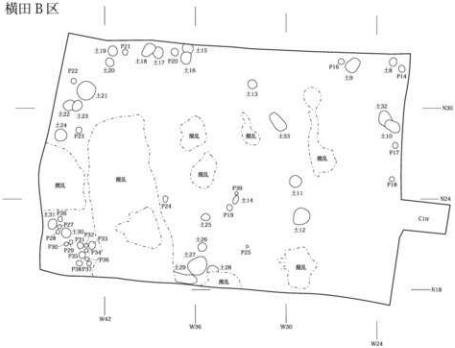


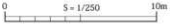
第４図　調査区全体図（S=1/1,200）

横田Ａ区



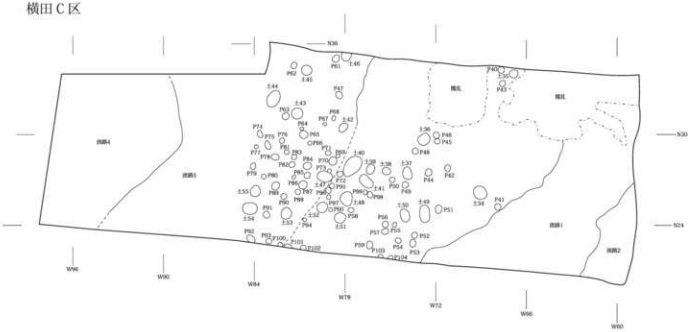
横田Ｂ区



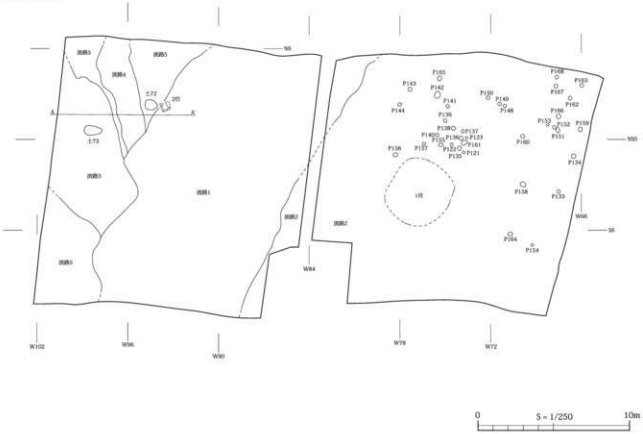


第５図　横田遺跡 Ａ・Ｂ区 全体図（S=1/250）

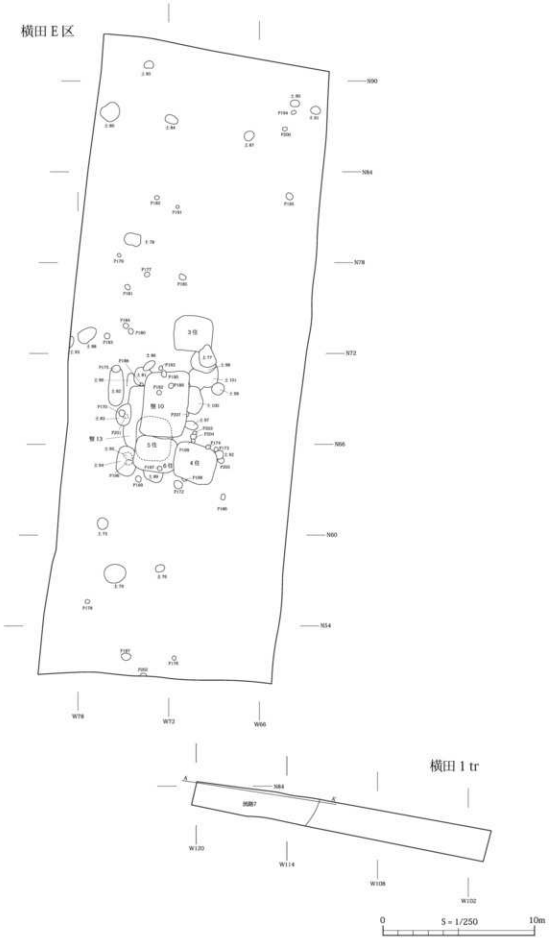
横田Ｃ区



横田Ｄ区

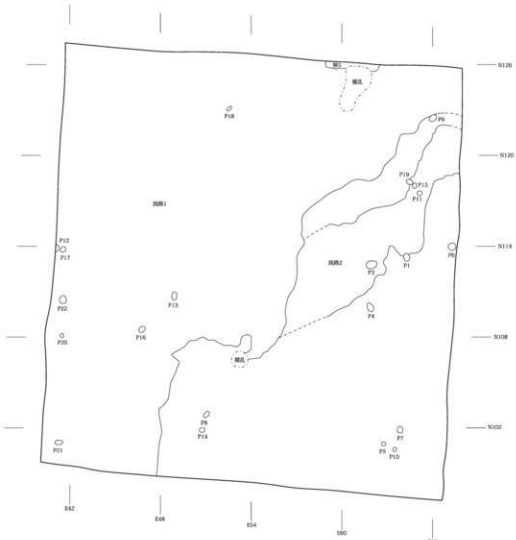


第６図　横田遺跡 Ｃ・Ｄ区 全体図（S=1/250）

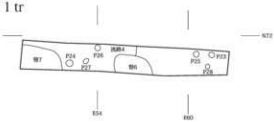


第７図　横田遺跡　Ｅ区・１tr 全体図（S=1/250）

大村塚田Ａ区



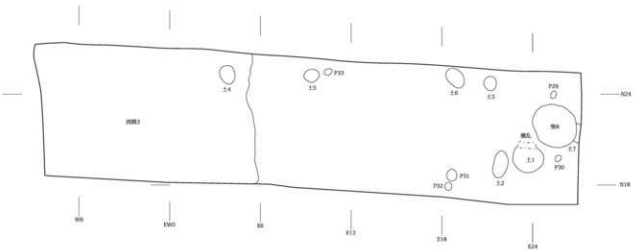
大村塚田１tr

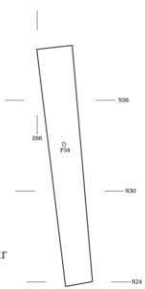


0　S＝1/250　10m

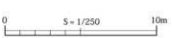
第８図　大村塚田遺跡　Ａ区・１tr 全体図（S=1/250）

大村塚田Ｂ区





大村塚田４tr



第９図　大村塚田遺跡 Ｂ区・４tr 全体図（S=1/250）

第２節　遺構

１　竪穴住居址、竪穴建物址

炉が確認された遺構、もしくは長軸と短軸の比率が１：1.2 に収まる遺構は竪穴住居址、短軸が２m を超える、もしくは超えると推定される大形の遺構は竪穴建物址とした。これらの平面形・規模・他遺構との新旧関係等については、一覧表を参照されたい。

⑴　横田遺跡（第２・３表、第10図、写真図版４～６）

横田遺跡では竪穴住居址が６軒、竪穴建物址が２軒検出された。内訳は縄文時代が２軒、平安時代後期が６軒である。

１住　D区東区に位置する。本址はトレンチ掘り下げの過程で炉石の一部を確認したことから、住居址の存在を推定して検出作業を行い、調査したものである。検出作業は平面での堆積土層の違いが不明瞭であったことから、土層断面観察により行った。その結果、本址覆土直上には本址埋没後に発生した洪水時に形成された洪水性堆積層が全面にわたり堆積していることが判明した。また、床面は締まりが弱く全体的に判然としていなかったものの、トレンチで確認した炉石の一部は、一辺約 30cm の焼土層を伴う住居址中央部床面上の小形正方形炉址であることが判明した。床面にピットは６基検出されたが、このうち P_2・P_4・P_5・P_6 の４基が柱穴と推定される。遺物は出土していない。炉および平面形態から、縄文時代の住居址と推定される。

２住　D区西区に位置する。流路１と流路５の境界に設定したトレンチ内で、焼土層および磨耗した土器片を伴う炉址を検出したことから住居址とした。調査の結果、本址は３回にわたり土石流等の自然災害の直撃をうけて破壊されていたことが判明した。第一段階では、流路５により本址床面全体が被災し、ピットの痕跡を残すのみとなった。ただこの時､炉址については破壊を免れ埋没程度の被害であった。第二段階では、流路４の砂礫が北西側から地山を削り取りながら直撃し、本址床面の西側から南側にかけての３分の１が削り取られて喪失する。第三段階では、北東方向から流路１による多量の礫の押し出しが炉址の位置まで達しており、本址床面の東側半分が削り取られて喪失する。このように床面の大部分が破壊されていたものの、残存部からピットを６基検出することができた。このうち、P_3 は深さから柱穴の可能性が高い。ほかは浅いことから用途は不明である。炉址は一辺約 60cm のほぼ正方形を呈している。北東方向からの流路１の砂礫押し出しの圧力により、北面炉石は垂直に立ちあがり、東面炉石は西側へ倒れこんでいたが、炉址内焼土層は残存しており、炉址構築時の掘り方もはっきり捉えることが可能であった。炉址の周辺部出土土器片等から縄文時代中期後葉の住居址と推定される。

３住　E区の中央に位置しており、南東は土 77 により喪失する。検出作業は平面での堆積土層の違いが不明瞭であったことから、土層断面観察により行った。覆土内には焼土粒や炭化物が微量含まれるものの、カマドや火床面は確認できなかった。床面は平坦であり、明確な貼床や硬化面は見られない。また、床面にピットは確認できなかった。遺物は非常に少ないが､土師器の杯などが出土している。時期は切り合いから、平安時代後期以前と推定される。

４住　E区の中央南寄りに位置する。検出作業は平面での堆積土層の違いが不明瞭であったことから、土層断面観察により行った。カマドや火床面は確認できなかった。床面は平坦であり、明確な貼床や硬化面は見られない。床面にピットは２基確認されたが、ともに柱痕はなく、浅いことから、柱穴ではないとみられる。遺物は土師器の杯・盤Ｂ、須恵器片などが出土している。時期は平安時代後期と推定される。

５住　E区の中央に位置する。大半を６住、竪 10 に切られるが、床面が深いことから全面を調査するこ

とができた。検出作業は平面での堆積土層の違いが不明瞭であったこと、切り合いが生じていることから、土層断面観察により行った。カマドや火床面は確認できなかった。床面は平坦であり、明確な貼床や硬化面は見られない。床面にピットは２基確認された。ともに柱痕があり、一定の深さがある。遺物は少ないが、土師器の杯などが出土している。時期は切り合いから、平安時代後期以前と推定される。

６住　E区の中央南寄りに位置する。東壁は４住、北壁の一部は竪10により喪失するが、概ね全面を調査することができた。検出作業は平面での堆積土層の違いが不明瞭であったこと、切り合いが生じていることから、土層断面観察により行った。カマドや火床面は確認できなかった。床面は平坦であり、明確な貼床や硬化面は見られない。床面にピットは１基確認された。覆土内には焼土粒が微量含まれるが、その用途は不明である。遺物は土師器の杯などが出土している。時期は平安時代後期と推定される。

竪10　E区の中央に位置する。検出作業は平面での堆積土層の違いが不明瞭であったこと、切り合いが生じていることから、土層断面観察により行った。カマドや火床面は確認できなかった。床面は平坦であり、明確な貼床や硬化面は見られない。床面にピットは８基検出され、P_6・P_7は柱痕が確認された。遺物は土師器の杯、須恵器の甕、灰釉陶器の碗、白磁の碗か鉢などが出土している。時期は平安時代後期と推定される。

竪13　E区の中央に位置する。東側の大半を５・６住、竪10、南側を土94、西側を土83により喪失しており、平面形は不明である。検出作業は平面での堆積土層の違いが不明瞭であったこと、切り合いが生じていることから、土層断面観察により行った。カマドや火床面は確認できなかった。床面は平坦であり、明確な貼床や硬化面は見られない。また、床面にピットは確認できなかった。遺物は非常に少ないが、土師器の杯などが出土している。時期は切り合いから、平安時代後期以前と推定される。

⑵　大村塚田遺跡（第６表、第13図、写真図版８）

大村塚田遺跡では竪穴建物址が４軒検出されたが、全て時期は不明である。

竪５　A区の北東に位置する。南壁の一部は攪乱により喪失し、北側は調査区外へ続く。大半が調査区外になることから、全形を捉えることはできず、床面の状況や住居内施設については不明である。遺物は非常に少なく、縄文土器片、弥生土器片が数点出土しているのみである。時期は不明である。

竪６　１トレンチの中央に位置する。南側は調査区外へ続く。大半が調査区外になることから、全形を捉えることはできず、床面の状況や住居内施設については不明である。遺物は非常に少なく、縄文土器片が数点出土しているのみである。時期は不明である。

竪７　１トレンチの西側に位置する。南側・西側は調査区外へ続く。大半が調査区外になることから、全形を捉えることはできず、床面の状況や住居内施設については不明である。遺物は非常に少なく、縄文土器片が数点出土しているのみである。時期は不明である。

竪８　B区の東側に位置する。火床面は確認できなかった。床面は平坦であり、明確な貼床や硬化面は見られない。また、床面にピットは確認できなかった。遺物は非常に少なく、縄文土器片が数点出土しているのみである。時期は不明である。

２　土坑、ピット

検出段階で概ね直径50cm以上の穴は土坑、直径50cm未満の穴はピットとした。これらの平面形・規模・他遺構との新旧関係等については、一覧表を参照されたい。

⑴　横田遺跡（第４・５表、第11図、写真図版６）

土坑は84基、ピットは176基が検出された。本項ではこれらの中から特徴的なものについて記述する。

土34　C区の中央やや東寄りに位置する、円形の土坑。土坑内には、多量の5～20cm大の礫が無造作に投げ込まれており、集礫土坑となっている。壁面際の覆土内には焼土塊が混入しており、底面付近には直径30cm、厚さ5cm程の円形の範囲に多量の炭化物堆積層が見られた。しかし、一部被熱している礫が存在するものの、全体的に見るとほとんどの礫は被熱しておらず、かつ、壁面も被熱した痕跡がないため、この場所での火の使用はなかったか、もしくは数回程度だった可能性が高い。遺物が出土していないことから、時期は不明である。

土72　D区西区の北寄りに位置する、円形の土坑。断面は緩やかにくぼむ皿状を呈し、その壁面には15～20cm大の礫が貼り付けるように二重に並べられる。平面的には集礫炉の形態を有しているものの、焼土・炭化物等は全く見られず、焼成を行った痕跡はない。覆土上層からは若干磨耗している縄文時代中期の土器片が1点出土している。破壊を受けている2住の覆土範囲内でもあり、紛れ込みの可能性も考えられる。

土77　E区の中央に位置する、楕円形の土坑。3住、土98を切る。覆土内には炭化物と焼土塊が含まれる層があり、被熱した20～30cm大の礫も混ざる。遺物は、床面よりも高い位置ではあるが、土師器の杯2点が正位及び伏せた状態で出土している。時期は平安時代後期と推定される。

土82　E区の中央西寄りに位置する、楕円形の土坑。P175に切られる。覆土内には炭化物と焼土粒が含まれる。遺物は、床面よりも高い位置ではあるが、土師器の杯が伏せた状態で出土した。しかし、雨天の際に土柱が崩落し、記録は取れていない。時期は平安時代後期と推定される。

土99　E区の中央東寄りに位置する、円形の土坑。土101を切る。覆土内には炭化物が含まれる。遺物は、床面よりも高い位置ではあるが、完形に近い土師器の杯が伏せた状態で出土している。時期は平安時代後期と推定される。

土101　E区の中央東寄りに位置する、不整形の土坑。竪10、土98・99・100に切られる。遺物は、床面よりも高い位置ではあるが、完形の土師器の杯2点と完形に近い土師器の杯1点が正位でまとまって出土している。時期は平安時代後期と推定される。

⑵　大村塚田遺跡（第7・8表、第14図）

土坑は7基、ピットは34基が検出された。これらは、A区で22基、B区で12基、1トレンチで6基、4トレンチで1基と各地区に分布している。平面形態は円形が18基、楕円形が21基、平面形不明が2基であり、方形は確認されていない。柱痕は土3、P28の2基で観察できたが、調査区内では掘立柱建物などを構成せず、性格は不明である。また、遺物は土1・2・6、P4・6・9・11・17・19・29・31・32の12基で出土した。いずれも遺物が少量で破片も小さいため、時期の特定は困難である。

3　流路（第12図）

流路は、横田遺跡で7条、大村塚田遺跡で4条検出された。両遺跡にまたがる流路もあるため、まとめて記載する。

横田流路1～5　C・D区において、縄文時代の住居址との切り合いから、縄文時代以降に形成されたと推定される明瞭な洪水性流路5条を検出することができた。以下、各流路を堆積順にみる。流路2は、北東方向から流れ下っており、礫をほとんど含まないシルト質土の堆積層を形成するため、洪水性堆積によるものと思われる。1住が完全に埋没した後で堆積している。流路5は、北方向から流れ下る砂礫層である。2住を破壊するが、破壊力は弱く2住の床面は残存している。流路2と流路5は切り合いがなく、新旧は不明である。流路4は流路5を切りながら北から流れ下る砂礫層である。地山を削る破壊力のため、2住の床面の一部が喪失する。流路3は、北西方向から流れ込む砂礫層である。破壊力は強く地山を削る。流路3と流

路４は切り合いがなく、新旧は不明である。また、土坑およびピットは、これらの流路を切る形で検出されている。流路１は調査区内で最も新しく、他の流路すべてを切って北東方向から南西方向に流れ下る。含まれる礫が大きく、礫層も地山を削り取りながら厚く堆積していることから、破壊力が強い大規模な土石流であった可能性が高い。

横田流路７　１トレンチに位置する。流路の東端の一部が確認できたのみであるため、流路の幅など規模は不明である。南北方向に延びると推定される。覆土の堆積状況から、流路の流れは三段階あったと考えられる。第一段階は検出した状態、第二段階は 35 ～ 40 層が埋没した状態、第三段階は更に 19 ～ 34 層が埋没した状態である。このように、本址は埋没により幅を変えながら流れが続いていたものと推定される。

横田流路６・大村塚田流路３　横田流路６はＡ区の南東、大村塚田流路３はＢ区の西側で検出された。２条とも覆土は 10cm 程度に収まる礫を多量に含む砂礫層である。現地形は大村塚田Ｂ区よりも横田Ａ区の方が低い墳状であり、大村塚田Ｂ区に入れたトレンチで判明した大村塚田流路３の底部よりも、表土を除去した横田Ａ区西側の検出面の方が低い標高である。これらのことから、横田流路６は、後世の掘削等により横田Ａ区全面に広がっていた覆土が除去されて、南東でかろうじて検出できた、大村塚田流路３と同一の流路と推定される。

第２表　横田遺跡 竪穴住居址一覧表

遺構No.	地区	平面形 主軸方向	長軸×短軸×深さ（cm） 床面積（㎡）	本址より旧 本址より新	備考	推定時期
1住	D	不整円形	(436) × (402) × 20		石囲い炉	縄文時代
		N-32°-E	(12.37)	流２		
2住	D				石囲い炉	縄文時代中期後葉
				流１・４・５		
3住	E	隅丸方形	256 × 232 × 26	土98		平安時代後期以前
		N-86°-W	(4.41)	土77		
4住	E	隅丸方形	280 × 251 × 8	6住、土92、P198		平安時代後期
		N-79°-W	5.74	P174		
5住	E	隅丸長方形	292 × 242 × 16	竪13		平安時代後期以前
		N-7°-E	5.58	6住、竪10		
6住	E	隅丸長方形	<264> × (224) × 6	5住、竪13、土89・94		平安時代後期
		N-6.5°-E	<5.44>	4住、竪10、P197		

測量数値
＜＞：残存値、（）：推定値

第３表　横田遺跡 竪穴建物址一覧表

遺構No.	地区	平面形 主軸方向	長軸×短軸×深さ（cm） 床面積（㎡）	本址より旧 本址より新	推定時期
竪１	欠番				
竪２	欠番				
竪３	欠番				
竪４	欠番				
竪５	欠番				
竪６	欠番				
竪７	欠番				
竪８	欠番				
竪９	欠番				
竪10	E	隅丸長方形	430 × 298 × 20	5・6住、竪13、土81・97・100・101、P207	平安時代後期
		N-6°-E	11.20	P189・190・192	
竪11	欠番				
竪12	欠番				
竪13	E	隅丸長方形	<420> × <102> × 6		平安時代後期以前
			<3.46>	5・6住、竪10、土83・94	
竪14	欠番				

測量数値
＜＞：残存値

第４表　横田遺跡 土坑一覧表

土坑No.	地区	平面形	規模（cm）			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
1	A	円形	94	85	16	土３	土２	縄文土器片	
2	A	円形	60	52	11	土１		縄文土器片	
3	A	円形	76	71	10		土１		
4	A	不明	<116>	<39>	10				
5	A	円形	54	51	5				
6	A	楕円形	63	42	2				
7	A	楕円形	70	29	7				
8	B	円形	53	51	7				
9	B	楕円形	100	74	7			土師器片	
10	B	楕円形	104	66	10	土32		縄文土器片	
11	B	円形	80	76	13			縄文土器片	
12	B	楕円形	89	107	4			縄文土器片	
13	B	円形	57	55	8			縄文土器片	
14	B	楕円形	60	32	3				
15	B	円形	70	<42>	5		土16	縄文土器片	
16	B	楕円形	50	65	5	土15		縄文土器片	
17	B	楕円形	70	<65>	21		土18		
18	B	楕円形	77	70	21	土17			
19	B	円形	64	62	16				
20	B	円形	57	56	19				
21	B	円形	123	119	17				
22	B	楕円形	<63>	65	12		土23		
23	B	楕円形	77	58	9	土22		縄文土器片	
24	B	円形	76	76	19			縄文土器片	
25	B	楕円形	57	43	5				
26	B	円形	53	51	12				
27	B	楕円形	130	110	18				礫混入
28	B	円形？	72	<38>	10				
29	B	楕円形	<145>	62	9				礫混入
30	B	円形	61	61	5				
31	B	円形	60	55	4				
32	B	楕円形	<72>	86	8		土10		
33	B	楕円形	133	66	32			縄文深鉢	
34	C	円形	95	90	49				礫・焼土塊多量に混入
35	C	楕円形	65	52	5				
36	C	楕円形	82	68	9				
37	C	楕円形	82	60	9				
38	C	楕円形	61	42	5				
39	C	楕円形	62	53	6				
40	C	楕円形	154	95	13				
41	C	楕円形	100	59	5				
42	C	楕円形	65	50	3	流５			
43	C	円形	74	74	7	流５			
44	C	楕円形	117	77	9	流５			
45	C	円形	68	58	7	流５			
46	C	楕円形	<55>	63	11	流５			
47	C	楕円形	99	71	13	（流５）	P73		
48	C	楕円形	90	86	7				
49	C	楕円形	114	63	9				
50	C	楕円形	88	62	5				
51	C	円形	70	70	6				
52	C	円形	73	70	7				
53	C	円形	77	69	10	（流５）			
54	C	楕円形	96	76	16	（流５）			
55	C	円形	70	67	13	（流５）			
56	欠番								
57	欠番								
58	欠番								
59	欠番								
60	欠番								
61	欠番								
62	欠番								
63	欠番								
64	欠番								
65	欠番								
66	欠番								
67	欠番								
68	欠番								
69	欠番								
70	欠番								
71	欠番								
72	D	円形	82	69	8	流５		縄文深鉢	礫多量に混入
73	D	楕円形	110	(31)	36	流３		土師器片、打製石斧	
74	欠番								
75	E	円形	80	73	18				
76	E	円形	56	52	18			縄文深鉢	
77	E	楕円形	150	104	22	３Ⅱ、土98		土師器杯	礫混入
78	E	楕円形	114	74	11				
79	E	円形	145	125	21			縄文深鉢	

土坑No.	地区	平面形	規模（cm）			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
80	E	楕円形	128	108	9				
81	E	楕円形	125	<119>	5	土96	竪10、土86、P188	土師器杯	
82	E	楕円形	252	93	20		P175	土師器杯・椀、灰釉陶器片	
83	E	楕円形	145	101	13	竪13、P201	P170	土師器片	
84	E	楕円形	84	52	7			縄文土器片	
85	E	円形	60	50	10				
86	E	楕円形	82	43	7	土81		土師器片	
87	E	円形	65	57	9				
88	E	楕円形	124	80	12				
89	E	不整形	128	<100>	15		6住、P197	土師器片	
90	E	楕円形	60	42	8				
91	E	円形	57	51	31				
92	E	円形	56	<47>	11	P205	4住		
93	E	楕円形？	70	<22>	12				
94	E	隅丸長方形	197	128	9	竪13、土95、P196	6住	土師器片	
95	E	楕円形	56	45	17		土94	土師器片	
96	E	楕円形	<74>	<65>	5		土84	土師器片	
97	E	楕円形	<8>	54	5		竪10		
98	E	楕円形	168	<39>	20	土101	3住、土77		
99	E	円形	84	77	7	土101		土師器杯	
100	E	楕円形	182	<145>	5	土101、P207	竪10	土師器片	
101	E	不整形	198	<135>	21		竪10、土98・99・100	土師器杯・椀	
102	欠番								

測値数値
＜＞：残存値、（）：推定値

第５表　横田遺跡 ピット一覧表

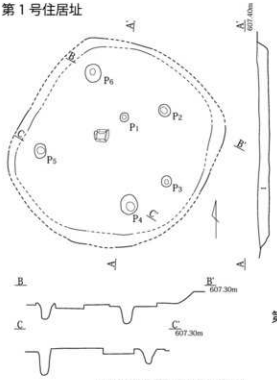
Pit No.	地区	平面形	規模（cm）			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
1	A	円形	23	21	6				
2	A	円形	38	37	18				
3	A	円形	41	41	5				
4	A	円形	35	33	3				
5	A	円形	18	18	5				
6	A	円形	37	34	4				
7	A	円形	43	42	7				
8	A	円形	26	25	6				
9	A	円形	19	18	7				
10	A	楕円形	45	33	15				
11	A	円形	39	<28>	4		P12		
12	A	円形	43	42	5	P11			
13	A	円形？	40	<29>	5				
14	B	円形	42	42	8				
15	欠番								
16	B	円形	35	31	6				
17	B	楕円形	36	30	7				
18	B	円形	27	25	4				
19	B	円形	38	36	4			土師器片	
20	B	円形	44	44	3				
21	B	円形	34	34	12				
22	B	円形	28	27	7				
23	B	円形	38	34	8				
24	B	円形	37	33	10				
25	B	円形	17	17	12			土師器片	
26	B	円形	32	27	4				
27	B	円形	26	26	4				
28	B	円形	23	21	4				
29	B	円形	26	26	8				
30	B	円形	20	20	7				
31	B	円形	40	39	4				
32	B	円形	23	20	1				
33	B	楕円形	50	41	10				
34	B	円形	22	20	2				
35	B	円形	41	40	1				
36	B	円形	25	22	1				
37	B	円形	30	26	2				
38	B	円形	35	35	4				
39	B	円形	21	19	5				
40	C	円形	40	39	19				
41	C	円形	41	40	8				
42	C	円形	40	38	10				
43	C	円形	38	34	7				
44	C	円形	45	45	10				
45	C	円形	38	32	7				
46	C	円形	42	40	7				
47	C	楕円形	48	40	10	流5			
48	C	円形	40	38	5				

Pit No.	地区	平面形	規模（cm）			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
49	C	楕円形	42	37	6				
50	C	円形	35	34	4				
51	C	楕円形	50	41	8				
52	C	円形	40	39	5				
53	C	楕円形	45	40	6				
54	C	楕円形	39	30	3				
55	C	円形	28	27	5				
56	C	円形	43	39	3				
57	C	楕円形	46	36	4				
58	C	楕円形	36	30	4				
59	C	楕円形	44	40	6			縄文土器片	
60	C	円形	21	20	3				
61	C	楕円形	47	38	8	流5			
62	C	楕円形	40	34	6	流5			
63	C	円形	48	44	5	流5			
64	C	円形	22	22	4	(流5)			
65	C	円形	59	55	9	(流5)			
66	C	円形	27	24	11	(流5)			
67	C	円形	23	22	6	流5			
68	C	楕円形	30	22	8	流5			
69	C	円形	25	23	8	(流5)			
70	C	楕円形	59	51	5	(流5)			
71	C	円形	34	32	4	(流5)			
72	C	円形	37	35	11				
73	C	円形	26	25	7	土47、(流5)			
74	C	楕円形	46	31	8	(流5)			
75	C	楕円形	59	35	5	(流5)			
76	C	円形	36	35	6	(流5)			
77	C	円形	25	22	6	(流5)			
78	C	楕円形	49	38	4	(流5)			
79	C	楕円形	40	33	6	(流5)			
80	C	円形	29	28	4	(流5)			
81	C	円形	29	27	4	(流5)			
82	C	円形	38	38	3	(流5)			
83	C	円形	32	31	4	(流5)			
84	C	楕円形	55	47	4	(流5)			
85	C	円形	42	40	4	(流5)			
86	C	円形	20	20	3	(流5)			
87	C	円形	57	54	6	(流5)			
88	C	楕円形	37	30	3	(流5)			
89	C	円形	53	48	10	(流5)			
90	C	円形	35	35	11	(流5)			
91	C	円形	41	40	12	(流5)			
92	C	楕円形	69	40	11	(流5)			
93	C	円形	36	35	8	(流5)			
94	C	円形	21	21	4				
95	C	円形	33	32	4				
96	C	楕円形	41	34	5				
97	C	円形	29	27	4				
98	C	楕円形	38	32	5				
99	C	円形	27	26	3				
100	C	楕円形	<25>	33	6	(流5)			
101	C	円形？	53	<25>	6				
102	C	楕円形	<25>	37	5				
103	C	円形？	<20>	32	10				
104	C	円形？	<20>	28	9				
105	欠番								
106	欠番								
107	欠番								
108	欠番								
109	欠番								
110	欠番								
111	欠番								
112	欠番								
113	欠番								
114	欠番								
115	欠番								
116	欠番								
117	欠番								
118	欠番								
119	欠番								
120	欠番								
121	D	円形	12	12	7	流2			
122	D	円形	17	17	15	流2			
123	D	円形	14	13	15	流2			
124	欠番								
125	欠番								
126	欠番								
127	欠番								

Pit No.	地区	平面形	規模（cm）			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
128	欠番								
129	欠番								
130	欠番								
131	欠番								
132	欠番								
133	D	円形	16	15		流2			
134	D	円形	26	24	16	流2			
135	D	円形	<24>	21		流2			
136	D	円形	27	27	9	流2			
137	D	円形	16	16	9	流2			
138	D	円形	25	25	14	流2			
139	D	円形	23	19	9	流2			
140	D	円形	18	18	4	流2			
141	D	円形	20	19	12	流2			
142	D	円形	34	(16)	19	流2			
143	D	円形	25	25	13	流2			
144	D	円形	23	22	8	流2			
145	欠番								
146	欠番								
147	欠番								
148	D	円形	20	18	7	流2			
149	D	円形	23	17	7	流2			
150	D	円形	23	21	7	流2			
151	D	楕円形	30	19	15	流2			
152	D	円形	20	18	5	流2			
153	D	円形	13	<7>	15	流2			
154	D	円形	18	17	6	流2			
155	D	円形	23	19	8	流2			
156	D	円形	21	19	8	流2			
157	D	楕円形	19	15	7	流2			
158	D	楕円形	35	28	11	流2			
159	D	楕円形	28	21	10	流2			
160	D	円形	25	24	4	流2			
161	D	楕円形	38	28	5	流2			
162	D	円形	19	18	10	流2			
163	D	円形	23	22	11	流2			
164	D	円形	24	20	7	流2			
165	D	楕円形	30	23	10	流2			
166	D	円形	30	25	9	流2			
167	D	円形	26	24	10	流2			
168	D	円形	20	18	8	流2			
169	E	円形	38	35	6				
170	E	円形	44	42	13	土83、P201			
171	欠番								
172	E	円形	56	50	11				
173	E	円形	22	20	10				
174	E	円形	28	26	6	4住			
175	E	楕円形	(50)	40	5	土82			焼土塊混入
176	E	円形	24	21	11				
177	E	円形	35	32	17				
178	E	円形	26	26	7				
179	E	円形	22	20	7				
180	E	円形	35	34	13				
181	E	楕円形	36	26	10				
182	E	楕円形	32	25	11				
183	E	円形	38	38	15				
184	E	円形	30	29	10				
185	E	楕円形	48	33	12				
186	E	楕円形	35	26	10				
187	E	円形	63	50	9			縄文土器片	
188	E	円形	22	18	28	土81			
189	E	楕円形	32	(13)	17	竪10		縄文土器片	
190	E	楕円形	43	(10)	16	竪10			
191	E	円形	18	16	4				
192	E	円形	32	(12)	19	竪10			
193	E	円形	26	(14)	18				
194	E	円形	30	25	7				
195	E	楕円形	49	39	21			縄文土器片	
196	E	楕円形	46	25	13		土94		
197	E	円形	27	(13)	12	6住、土89			
198	E	楕円形	38	30	9		4住		
199	E	円形	28	24	7	P204		土師器片	
200	E	楕円形	30	20	14				
201	E	円形	32	28	(10)		土83、P170		
202	E	円形？	31	<14>	15				
203	E	円形	24	24	3	P204			
204	E	円形	<34>	35	3		P199・203		
205	E	楕円形	45	34	10		土92		
206	欠番								
207	E	楕円形	<42>	32	6		竪10、土100		

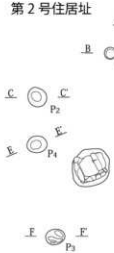
測量数値
＜＞：残存値、（）：推定値

第１号住居址



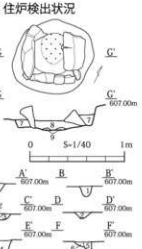
1：暗褐シルト質（砂粒・黄褐土粒 多、黄分 中）

第２号住居址

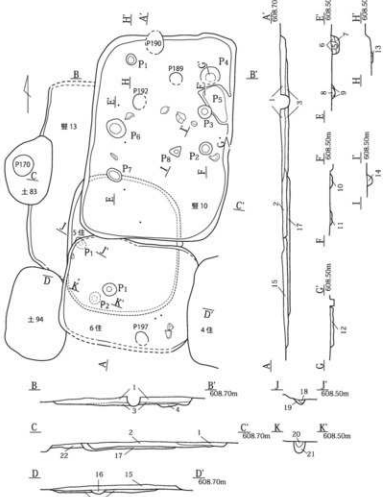


1：黒褐シルト質（砂粒・黄褐土粒 多）
2：黒褐シルト質（砂粒 多、～1cm 礫 少）
3：褐砂質（砂粒 多、～1cm 礫 少）
4：暗褐シルト質（砂粒 多、黄褐土粒・～3cm 礫 微）
5：暗褐シルト質（砂粒 多、黄褐土粒 少）
6：暗褐シルト質（砂粒 多、～1cm 礫 少）
7：暗褐シルト質（砂粒・黄褐土粒 多、～1cm 礫 少、～2cm 礫・焼土塊 微）
8：黒褐シルト質（～2cm 礫 微）
9：焼土

2 住炉検出状況



第５・６号住居址、第 10・13 号竪穴建物址



第３号住居址

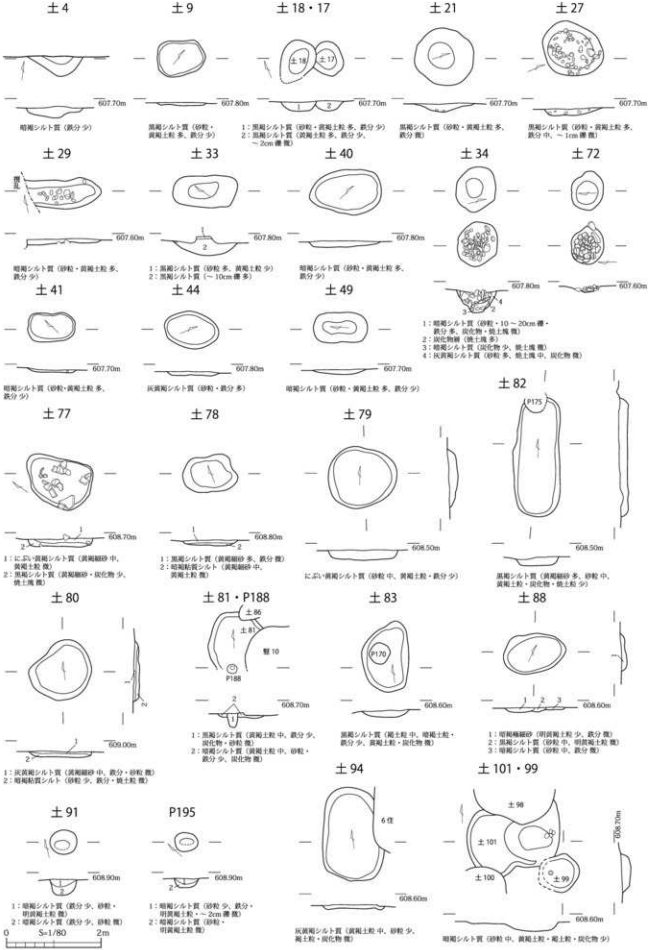
1：黒褐シルト質（黄褐細砂 中、焼土粒・炭化物 微）
2：黒褐シルト質（黄褐細砂 少、黄褐土粒・焼土粒 微）

第４号住居址

1：にぶい黄褐シルト質（鉄分 多、細砂 少）
2：暗褐シルト質（黄褐土粒 中、黒褐土粒・砂粒 少）
3：暗褐シルト質（褐土粒 中、黄褐土粒 少、鉄分・砂粒 微）

1：黒褐シルト質（黄褐土粒 中、砂粒・褐土粒 少、黒土粒 微）
2：暗褐シルト質（褐土粒 中、黄褐土粒 少、砂粒・黒土粒 微）
3：暗褐シルト質（黄褐土粒 中、砂粒 少、黒土粒・炭化物 微）
4：にぶい黄褐シルト質（黄褐土粒 中、砂粒・鉄分 少、黒土粒 微）
5：黒褐シルト質（褐土粒 中、黄褐土粒・鉄分 少、砂粒 微）
6：暗褐シルト質（褐土粒・黄褐土粒・鉄分 微）
7：暗褐シルト質（褐土粒 中、黄褐土粒・砂粒 微）
8：黒褐シルト質（褐土粒 中、黄褐土粒・砂粒 少、鉄分・炭化物 微）
9：暗褐シルト質（褐土粒・黄褐土粒 少、鉄分・砂粒 微）
10：オリーブ褐シルト質（黄褐細砂 中、鉄分 少）
11：黒褐シルト質（黄褐細砂 中、黄褐土粒 少、焼土粒 微）
12：暗褐シルト質（黄褐土粒・鉄分 少、砂粒・炭化物 微）
13：暗褐シルト質（黄褐細砂 少、黄褐土粒 微）
14：暗褐シルト質（黄分 中、砂粒・焼土粒 少）
15：黒褐シルト質（褐土粒・橙土粒 少、砂粒・鉄分 微）
16：黒褐シルト質（鉄分 中、黄褐細砂 少、焼土粒 微）
17：暗褐シルト質（黄褐土粒 中、鉄分・砂粒 少、褐土粒 微）
18：にぶい黄褐シルト質（黄褐細砂 中、鉄分 少、炭化物 微）
19：暗褐シルト質（黄褐細砂 中、黄褐土粒 少、炭化物・焼土粒 微）
20：暗褐シルト質（黄褐細砂 中、赤褐土粒 少、炭化物・黄褐土粒 微）
21：暗褐シルト質（黄褐細砂 中、赤褐土粒 少、炭化物・黄褐土粒 微）
22：暗褐シルト質（褐土粒 中、鉄分・黄褐土粒 少、砂粒・炭化物 微）

第 10 図　横田遺跡 竪穴住居址、竪穴建物址

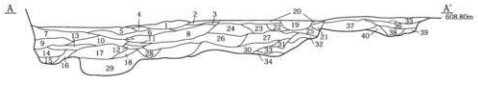

土4
607.70m
暗褐シルト質（鉄分少）
土9
607.80m
黒褐シルト質（砂粒・黄褐土粒 多、鉄分 少）
土18・17
土18
土17
607.70m
1：黒褐シルト質（砂粒・黄褐土粒 多、鉄分 少）
2：黒褐シルト質（黄褐土粒 多、鉄分 少、～2cm 礫 微）
土21
607.70m
黒褐シルト質（砂粒・黄褐土粒 多、鉄分 微）
土27
607.70m
黒褐シルト質（砂粒・黄褐土粒 多、鉄分 中、～1cm 礫 微）
土29
607.60m
暗褐シルト質（砂粒・黄褐土粒 多、鉄分 少）
土33
607.80m
1：黒褐シルト質（砂粒 多、黄褐土粒 少）
2：黒褐シルト質（～10cm 礫 多）
土40
607.80m
暗褐シルト質（砂粒・黄褐土粒 多、鉄分 少）
土34
607.80m
土72
607.60m
1：暗褐シルト質（砂粒・10～20cm 礫・鉄分 多、炭化物・焼土塊 微）
2：炭化物層（焼土塊 多）
3：暗褐シルト質（炭化物 少、焼土塊 微）
4：灰黄褐シルト質（砂粒 多、焼土塊 中、炭化物 微）
土41
607.70m
暗褐シルト質（砂粒・黄褐土粒 多、鉄分 少）
土44
607.80m
灰黄褐シルト質（砂粒・鉄分 多）
土49
607.70m
暗褐シルト質（砂粒・黄褐土粒 多、鉄分 少）
土77
608.70m
1：にぶい黄褐シルト質（黄褐細砂 中、黄褐土粒 微）
2：黒褐シルト質（黄褐細砂・炭化物 少、焼土塊 微）
土78
608.80m
1：黒褐シルト質（黄褐細砂 多、鉄分 微）
2：暗褐粘質シルト（黄褐細砂 中、黄褐土粒 微）
土79
608.50m
にぶい黄褐シルト質（砂粒 中、黄褐土粒・鉄分 少）
土82
P175
608.50m
黒褐シルト質（黄褐細砂 多、砂粒 中、黄褐土粒・炭化物・焼土粒 少）
土80
609.00m
1：灰黄褐シルト質（黄褐細砂 中、鉄分・砂粒 微）
2：暗褐粘質シルト（砂粒 少、鉄分・焼土粒 微）
土81・P188
土86
土81
暫10
P188
608.70m
1：黒褐シルト質（黄褐土粒 中、鉄分 少、炭化物・砂粒 微）
2：暗褐シルト質（黄褐土粒 中、砂粒・鉄分 少、炭化物 微）
土83
P170
608.60m
黒褐シルト質（褐土粒 中、暗褐土粒・鉄分 少、黄褐土粒・炭化物 微）
土88
608.60m
1：暗褐極細砂（明黄褐土粒 少、鉄分 微）
2：黒褐シルト質（砂粒 中、明黄褐土粒 微）
3：暗褐シルト質（砂粒 中、鉄分 微）
土91
608.90m
1：暗褐シルト質（鉄分 少、砂粒・明黄褐土粒 微）
2：暗褐シルト質（鉄分 少、砂粒 微）
P195
608.90m
1：暗褐シルト質（砂粒 少、鉄分・明黄褐土粒・～2cm 礫 微）
2：暗褐シルト質（砂粒・明黄褐土粒 微）
0 S=1/80 2m
土94
6住
608.60m
灰黄褐シルト質（黄褐土粒 中、砂粒 少、焼土・炭化物 微）
土101・99
土98
土101
土100
土99
608.70m
608.60m
暗褐シルト質（砂粒 中、黄褐土粒・褐土粒・炭化物 少）

第 11 図　横田遺跡 土坑

流路1・3・4・5

1：暗褐シルト質（砂粒・黄褐土粒多、鉄分少）
2：暗褐細砂（黄褐土粒 大）
3：黒褐粗砂（～15cm 礫 大）
4：褐シルト質（砂粒・鉄分多）
5：暗褐細砂
6：にぶい黄褐細砂
7：黒褐粗砂（～5cm 礫 大）
8：黒褐シルト質（～2cm 礫・黄褐土粒・砂粒 多）
9：黒褐シルト質（砂粒・黄褐土粒 多）
10：黒褐粗砂（～2cm 礫 大）

流路7



1：黒褐シルト質（黄褐土粒多、にぶい黄褐土粒中、砂粒 微）
2：黒褐シルト質（黄褐土粒中、褐土粒少、鉄分 微）
3：暗褐砂質シルト（～5cm 礫中、明黄褐土粒・褐土粒 少）
4：黒褐シルト質（～5cm 礫中、黄褐土粒少、褐土粒 微）
5：黒褐シルト質（褐土粒多、暗褐土粒少、砂粒 微）
6：暗褐シルト質（黄褐土粒中、褐土粒少、砂粒 微）
7：暗褐砂質シルト（褐土粒多、黄褐土粒・砂粒 微）
8：暗褐シルト質（黄褐土粒中、褐土粒少、鉄分 微）
9：暗褐シルト質（～5cm 礫多、黄褐土粒中、褐土粒・砂粒 少）
10：黒褐砂質シルト（～5cm 礫・黄褐土粒・明黄褐土粒少、褐土粒 微）
11：暗褐シルト質（炭褐土粒中、褐土粒少、黒土粒 微）
12：暗褐シルト質（褐土粒中、黄褐土粒・黒土粒 少）
13：暗褐シルト質（～3cm 礫多、褐土粒・砂粒 少、黒土粒 微）
14：暗褐シルト質（～10cm 礫大、黄褐土粒・褐土粒少）
15：黒褐中砂（～3cm 礫中、明黄褐土粒・褐土粒 少）
16：黒褐中砂（黄褐土粒・褐土粒少、黒土粒 微）
17：暗褐中砂（～10cm 礫大、褐土粒・明黄褐土粒少、黒土粒 微）
18：暗褐シルト質（～1cm 礫多、黄褐土粒・黒土粒 少）
19：黒褐シルト質（～5cm 礫大、炭褐土粒・褐土粒 少）
20：暗褐中砂（黄褐土粒少、黒土粒 微）
21：暗褐砂質シルト（黄褐土粒少、明褐土粒・砂粒 微）
22：黒褐シルト質（褐土粒中、黄褐土粒少、鉄分 微）
23：暗褐砂質シルト（褐土粒中、黄褐土粒少、黒土粒 微）
24：黒褐中砂（～5cm 礫多、黄褐土粒 少）
25：暗褐中砂（褐土粒・鉄分 少）
26：黒褐中砂（～20cm 礫大、黄褐土粒・褐土粒 少）
27：黒褐細砂（褐土粒少、黒土粒 微）
28：黒褐中砂（～3cm 礫多、暗褐土粒 少）
29：黒褐粗砂（～15cm 礫大、褐土粒・黄褐土粒 少）
30：黒褐中砂（～10cm 礫多、黄褐土粒・暗褐土粒 少）
31：黒褐中砂（褐土粒・暗褐土粒 少）
32：暗褐細砂（褐土粒中、鉄分 少）
33：にぶい褐粗砂（礫分多、褐土粒中、褐灰土粒 少）
34：暗褐粗砂（褐土粒・黄褐土粒少、明黄褐土粒 微）
35：黒褐シルト質（褐土粒中、黄褐土粒 少）
36：黒褐シルト質（褐土粒中、黄褐土粒・砂粒 少）
37：暗褐砂質シルト（～10cm 礫大、褐土粒 少）
38：黒褐砂質シルト（褐土粒中、黄褐土粒・～0.2cm 礫 少）
39：黒褐シルト質（褐土粒中、黄褐土粒 少、砂粒 微）
40：黒褐砂質シルト（褐土粒中、黄褐土粒・～2cm 礫 少）

0　S=1/80　2m

第12図　横田遺跡 流路

第6表　大村塚田遺跡 竪穴建物址一覧表

遺構No.	地区	平面形	長軸×短軸×深さ（cm）	本址より旧	推定時期
		主軸方向	床面積（㎡）	本址より新	
竪1	欠番				
竪2	欠番				
竪3	欠番				
竪4	欠番				
竪5	A		<350> × <44> × 16	流1	不明
			<0.88>		
竪6	1tr	隅丸方形？	<260> × <118> × 8	流4	不明
			<2.27>		
竪7	1tr	隅丸方形？	<268> × <150> × 14	流4	不明
			<2.98>		
竪8	B	円形	294 × 272 × 14	土7	不明
		N-76°-W	5.34		

測量数値
＜＞：残存値

第7表　大村塚田遺跡 土坑一覧表

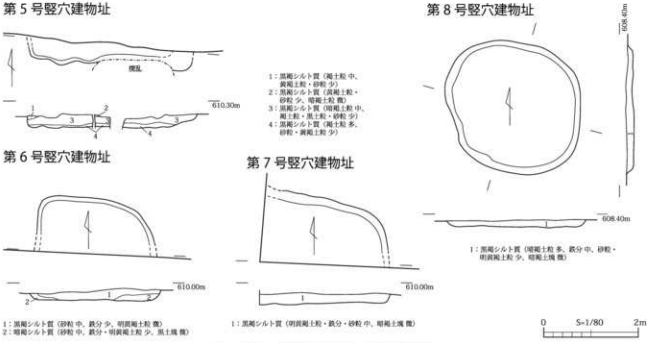
土坑No.	地区	平面形	規模（cm）			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
1	B	楕円形	200	160	16			土師器甕	
2	B	楕円形	171	90	11			縄文土器片	
3	B	楕円形	98	80	19				柱痕あり
4	B	楕円形	120	99	9				
5	B	円形	97	87	9				
6	B	楕円形	145	98	15			土師器甕	
7	B	不明	125	<30>	16		竪8		

測量数値
＜＞：残存値

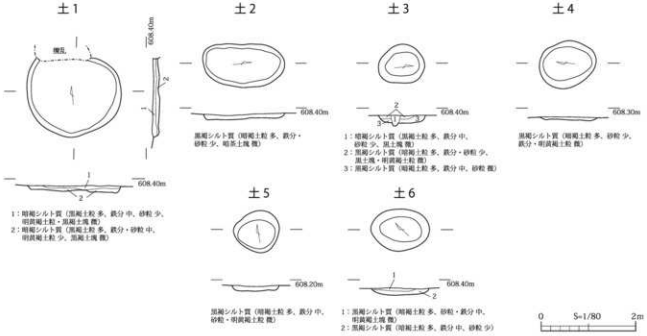
第８表　大村塚田遺跡 ピット一覧表

Pit No	地区	平面形	規模（cm）			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
1	A	楕円形	49	38	10	流２			
2	A	不明							壁面観察
3	A	楕円形	70	45	6	流２			
4	A	楕円形	52	40	16			縄文土器片	
5	A	円形	27	25	6				
6	A	円形	46	40	19			土師器甕	
7	A	円形	40	38	10				
8	A	楕円形	49	26	16				
9	A	楕円形	49	38	3	流１		縄文深鉢	
10	A	円形	21	19	8				
11	A	楕円形	30	26	8	流２		縄文深鉢	
12	A	円形？	42	(24)	16	流１			
13	A	楕円形	48	33	7	流１			
14	A	楕円形	36	28	19				
15	A	楕円形	35	27	6	流２			
16	A	楕円形	42	31	11	流１			
17	A	円形	37	34	16	流１		縄文深鉢	
18	A	楕円形	30	18	7	流１			
19	A	楕円形	39	29	7	流２		縄文深鉢	
20	A	円形	24	22	15	流１			
21	A	楕円形	40	28	19	流１			
22	A	円形	47	43	14	流１			
23	1tr	円形	33	28	2	流４			
24	1tr	円形	42	40	8	流４			
25	1tr	円形	35	34	6	流４			
26	1tr	円形	37	36	13	流４			
27	1tr	楕円形	33	25	10	流４			
28	1tr	円形	26	25	13	流４			柱痕あり
29	B	楕円形	50	33	15			縄文深鉢	
30	B	円形	40	38	8				
31	B	円形	75	68	13			土師器甕	
32	B	楕円形	53	46	13			土師器甕	
33	B	円形	46	40	5				
34	4tr	円形	25	20	8				

測量数値
（）：推定値



第 13 図　大村塚田遺跡 竪穴建物址



第 14 図　大村塚田遺跡 土坑

第３節　遺物

１　土器・陶磁器

両遺跡とも縄文時代、平安時代の土器が主体となる。その他は弥生時代、近世の土器がわずかに出土している。実測可能なものや特徴的なものは極力図化し、横田遺跡で計39点、大村塚田遺跡で計15点を掲載した。以下、遺跡・時代ごとに詳細を述べていく。なお、平安時代の土器における種別・器種・時期区分などは文末に記した文献に準じるものとする。

(1)　横田遺跡（第９表、第15図、写真図版８～10）

ア　縄文時代

調査区全域にわたり数度の洪水性堆積物が覆っており、かつ、調査した２軒の竪穴住居址も自然災害を受けていたことから、出土した土器片は洪水性堆積物内に混入していた物を含めても数は少なく、しかも磨耗した小破片が多い状況であった。１は口唇部から口辺部破片である。口唇部外面に幅広の隆帯を貼り付け、竹管により口唇部頂に一条の沈線をめぐらしている。２は体部ではなく鍔部分に穿孔のある有孔鍔付土器の鍔部破片である。有孔鍔付土器の最末期に属するものと思われる。３・４は口唇部から口辺部破片である。口唇部に浮線文がある無文の粗製土器である。５は下胴部から底部破片である。底部に網代痕があり、側面に縦方向の条痕文が施文される。６は底部から胴下半部破片である。７は注口土器の注口部周囲破片である。注口部は貼り付けナデ成形で、注口部周囲には隆帯をめぐらし、長円形穿孔の把手状飾りを付けている。ほかの部分は無文である。８は口唇部から口辺部にかけて無文帯とし、頸部に横位の隆帯と交互刺突文が施文されるものである。内面に若干の炭化物が付着している。９は胴部破片である。平行する２本の隆線により大柄渦巻文の区画を描き、その間をすべて沈線で埋めている。内面が一部黒色に変色している。10 は口唇部から口辺部破片である。口唇部は無文で「く」の字状に外反している。口辺部は沈線で埋めている。11 は口唇部から口辺部破片である。口辺部を隆線で楕円形に区画し、横方向の綾杉文で埋めている。12 は底

部破片である。ヘラ状工具により、底側面がケズリ成形されている。13は口縁部から口辺部にかけての無文破片である。一部外面が黒色に変色している。14は口辺部から頸部破片である。口辺部を無文帯とし、頸部下を二条の隆帯により区画し、空間を横位の綾杉文で埋めている。胴部懸垂文につながる隆線渦巻文が残存している。15は胴部破片である。貼り付けた細い隆帯を半截竹管による連続爪形文で縁取り、区画を形成している。

各土器片の時期は、15は中期中葉Ⅱ新道期、1・6・10・11・12は中期後葉Ⅱ期、8・9・13・14は中期後葉Ⅲ期（唐草文系樽形土器）、2は中期後葉曽利Ⅲ期、3・4・5・7は後期前葉堀之内期に比定されよう。

イ　平安時代

今回の調査ではE区の竪穴住居址、竪穴建物址、土坑からの出土が主であり、その他の調査区では遺構に伴わない細片がわずかに出土するのみである。種別の内訳は土師器・須恵器・灰釉陶器・白磁である。すべて食膳具であり、土師器の杯がその大半を占める。その他は土師器の盤B・図示していないが椀、須恵器の杯A、灰釉陶器の碗、白磁の碗または鉢が出土している。煮炊具・貯蔵具などの出土は見られない。また、胎土は橙褐色を呈し褐色粗粒砂を含むもの、褐色を呈し石英・長石・雲母などの極粗粒砂を多量に含むものの2種類が確認できた。後者は30・37・38のみであるが、前者の土器に比べ調整が粗雑な印象を受ける。また、土坑出土の土器はすべてが土師器の杯であり、遺構ごとに2・3枚のセットで出土していることが特徴的である。いずれも小形品で器高が低く扁平な形状を呈する。

これらの土器群の時期は、いずれの土器群も概ね14・15期（平安時代後期後半～末期）に相当すると捉えられる。以下、遺構ごとに概観していく。

4住出土土器群（16～18）

3点を図示している。土師器の杯・盤Bが出土している。杯は大形品と小形品の2法量が見られる。17は大形の杯である。16に比べると調整は粗雑であり、極粗粒砂が多く含まれている。18は土師器の盤Bである。これらの時期は14・15期と推定される。

6住出土土器群（19・20）

2点を図示している。ともに土師器の杯であり、体部は直線的に開く形状である。2法量に分かれ、19は小形で20は大形である。20は外面に二段のロクロ目が残るが、内面はなめらかに調整されている。これらの時期は14・15期と推定される。

竪10出土土器群（21・22）

2点を図示している。その他図示し得なかったが須恵器の甕が出土している。21は白磁の碗または鉢と推定される。やや内湾する体部で外面に櫛目文・箆描文を有し、見込みの部分に段がわずかに確認できる。釉厚は極めて薄く均一で淡黄灰色を呈する。文様や釉調などをみると、北宋時代（11～12世紀）の定窯系白磁である可能性が考えられる。22は灰釉陶器の碗であり、器面の調整はナデのみである。指おさえによる短い輪花表現を有し、美濃窯の輪花手法分類によるとⅣ Bb 1類と考えられる。時期の詳細は不明であるが、調整からみると灰釉陶器編年における丸石2号窯式並行期と推定される。21は14・15期、22は11・12期とみられるが、図化し得なかった細片に扁平な土師器の杯があることや、遺構の切り合いから推定すると、これらの土器群はほかの遺構と同じく14・15期に相当するものとみたい。

土77出土土器群（23・24）

2点を図示しており、ともに土師器の杯である。23は逆位、24は正位で並んだ状態で出土している。23はロクロ目が強く残る。口縁端部の外側にわずかな面が認められるため、皿の可能性も考えられる。

土 82 出土土器群（25・26）

2点を図示しており、ともに土師器の杯である。その他、図示し得なかったもので土師器の椀がある。25は調整が丁寧であり、底部を回転糸切りの後ナデ消している。26は底部に板状の圧痕が認められる。

土 99 出土土器群（27・28）

2点を図示している。ともに完形の土師器の杯である。27は緩く反り返る体部をしており、底部を回転糸切りの後ナデ消している。内面に煤の付着が見られるため、灯明皿としての使用が想定される。28は全体的に厚手で外面にロクロ目が残るが、内面はナデを加えてなめらかに調整している。底部にはナデ消したような痕跡が認められる。

土 101 出土土器群（29～31）

3点を図示している。すべて土師器の杯であり、そのうち29・30は完形である。これらは三角形に並んだ状態でまとまって出土している。その他図示し得なかったもので、土師器の杯の大形品が出土している。29は器高が高く、体部は直線的に開き二段のロクロ目が見られるが、内面はなめらかに調整している。30は厚手で褐色を呈し、胎土は長石や白色の粒子を多く含んでいる。31は底部が薄く、底部回転糸切りの後ナデ消しを行い平らに仕上げている。

E区検出面・包含層出土土器（32～38）

7点を図示している。32～37は土師器の杯で、すべて小形品である。その他、須恵器の甕が出土している。32はロクロ調整後に指ナデを施す。35は厚手で内面が黒色を呈するが、二次的な被熱によるものとみられる。外面の口縁部付近にはタールがわずかに付着しているため、灯明皿としての使用が想定される。37は二段のロクロ目が残り、体部上半から口縁にかけて薄く成形されている。38は土師器の盤Bで、高台貼り付け部は粗雑に調整されている。

A1トレンチ出土土器（39）

1点を図示している。遺構に伴う出土ではない。39は須恵器の杯Aである。体部の立ち上がりは内湾気味で底部は回転糸切りを施す。体部の形状から時期は5期と推定されるが、詳細は不明である。

(2) 大村塚田遺跡（第10表、第16図、写真図版10）

ア 縄文時代・弥生時代

1は頸部破片である。外面に波状沈線が施されており、内面には成形時の指頭圧痕が見られる。2は胴部破片である。半截竹管状工具の押し引きにより区画をつくり、区画内に縄文を施文している。3は注口土器の注口部破片である。幅広の粘土板を半円形に貼り付けて把手を成形している。注口部の長さは短く、全体に無文である。5は頸部から胴上部破片である。頸部に横位の隆帯をめぐらし、隆帯上は連続爪形文を刻んでいる。隆帯より上部は無文を呈し、下部は縦位の平行沈線で埋めている。6は胴部破片である。4本歯の櫛状工具による横位沈線により区画を形成し、区画内を左上から右下への斜行沈線で埋めている。7は把手部・口唇部・口辺部破片である。把手部は横位の平行沈線を刻み、細紐状の粘土を縦位に貼り付けて格子状の文様を施している。左側面に穿孔の痕跡が見られる。口唇部には連続沈線を施し、口辺部は横位の平行沈線と右上から左下への斜行沈線で埋めている。8は胴部破片である。隆帯と沈線により方形区画をつくり区画内を左上から右下への斜行沈線で埋めている。隆帯上は連続爪形文を刻んでいる。9は口唇部から口辺部破片である。口唇部は「く」の字状に外反している。口唇部は横位沈線が施され、口辺部は右上から左下への斜行沈線で埋めている。11は底部破片である。底部と胴下部との接続部に押圧成形の際に生じた張り出しが見られ、底部にはわずかに指頭押圧痕が残っている。全体に無文である。

各土器片の時期は、2・5・6・7・8・9は縄文中期中葉藤内期、11は縄文中期後葉曽利Ⅰ期、3は

縄文後期前葉堀之内期、1は弥生中期後半栗林期に比定されよう。

イ　平安時代

遺構に伴う出土はほとんどなく、量もわずかである。種別の内訳は土師器・須恵器・白磁である。その他、図示し得なかったがB区の検出面や、2・3トレンチで土師器の甕、黒色土器、須恵器などが細片で出土している。

P31 出土土器（10）

1点を図示している。10は土師器の甕Bである。器壁は厚く外面にハケ目調整、内面に指頭圧痕が見られる。時期は7・8期（平安時代前期後半）に推定されるが、詳細は不明である。

1トレンチ出土土器（12～15）

4点を図示している。いずれも遺構に伴うものではなく、一括資料として捉えることはできない。12は土師器の椀である。胎土は橙褐色で白色・黒色砂粒を多く含んでいる。13は須恵器の杯Bである。口縁の立ち上がりが強いため深形のものとみられる。端部には強いヨコナデが施される。14は須恵器の杯蓋Bである。外面の降灰の様子から、重ね焼きを行ったことが確認できる。15は白磁の椀である。口縁は直行し、釉厚は薄く淡青色を呈することから、刑窯・定窯系の大宰府Ⅰ-2類（平安時代前期／8世紀末～9世紀前半）と推定される。内面にはわずかであるが気泡が認められる。また、図示し得なかったもの、灰釉陶器の碗が出土しており、口縁部の形状から光ヶ丘1号窯式期と推定される。これらの土器は残存部が少ないため詳細は不明であるが、概ね5～8期（平安時代前期）の幅に収まると考えられる。

ウ　近世（4）

A区の検出面から1点のみ出土している。4は土師質土器の火鉢である。外面に深い沈線を有する。口縁部付近は両側に煤の付着が見られる。

参考文献

恵那市教育委員会 1983『正家一号窯発掘調査報告書』

長野県史刊行会 1988『長野県史　考古資料編　全1巻(4)　遺構・遺物』

㈶長野県埋蔵文化財センター 1990『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4－松本市内その1－総論編』

大宰府市教育委員会 2000『太宰府市の文化財 第49集 大宰府条坊跡ⅩⅤ－陶磁器分類編－』

第9表　横田遺跡 土器・陶磁器観察表

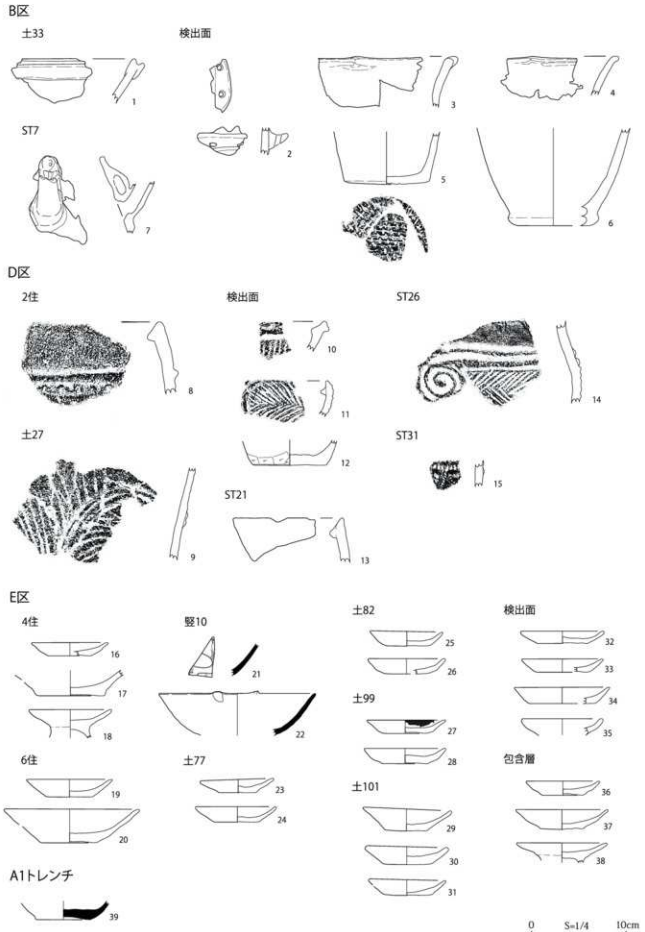
図No.	地区	遺構	種別	器種器形	法量（cm）			残存度		成形・調整等	備考
					口径	底径	器高	口縁	底部		
1	B	土33	縄文土器	深鉢						ナデ	唐草文系
2	B	検出面	縄文土器	有孔鍔付土器						ナデ	
3	B	検出面	縄文土器	深鉢						ナデ	
4	B	検出面	縄文土器	深鉢						ナデ、内ミガキ	
5	B	検出面	縄文土器	深鉢		(8.9)			1/2	ナデ、工具ナデ、外ケズリ	底部剥代痕
6	B	検出面	縄文土器	深鉢		(9.6)			わずか	ナデ、内工具ナデ	内面炭化物
7	B	ST7	縄文土器	注口土器						ナデ	
8	D	2住	縄文土器	深鉢（樽形土器）						ナデ	唐草文系／内面炭化物
9	D	土72	縄文土器	深鉢（樽形土器）						ナデ	唐草文系
10	D	検出面	縄文土器	深鉢						ナデ	外面炭化物・焼土粒
11	D	検出面	縄文土器	深鉢						ナデ	
12	D	検出面	縄文土器	深鉢						ナデ、外ケズリ	
13	D	ST21	縄文土器	深鉢（樽形土器）						ナデ	唐草文系
14	D	ST26	縄文土器	深鉢（樽形土器）						ナデ	唐草文系
15	D	ST31	縄文土器	深鉢						ナデ	
16	E	4住	土師器	杯	(8.1)	(4.5)	1.4	1/4	1/3	ロクロ、口縁ヨコ	
17	E	4住	土師器	杯		(7.4)			完	ロクロ、底回糸	

図No.	地区	遺構	種別	器種器形	法量（cm）			残存度		成形・調整等	備考
					口径	底径	器高	口縁	底部		
18	E	4 住	土師器	盤 B	(8.8)			わずか		ロクロ、口縁ヨコ	
19	E	6 住	土師器	杯	(9.1)	5.2	1.8	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
20	E	6 住	土師器	杯	(14.35)	6.4	3.55	1/16	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
21	E	竪 10	白磁	碗 or 鉢						ロクロ、外櫛目文・蓮描文、施釉（淡黄灰）／灰白	5 住の破片と接合
22	E	竪 10	灰釉陶器	碗	(16.6)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ、口縁指オサエ、淡掛け	6 住の破片と接合／輪花碗
23	E	ま 77	土師器	杯	7.8	(4.1)	1.5	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
24	E	ま 77	土師器	杯	(8.6)	4.9	1.6	わずか	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
25	E	ま 82	土師器	杯	(7.7)	5.1	1. 45	1/8	ほぼ完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ	
26	E	ま 82	土師器	杯	(8.2)	5.2	1.6	1/12	ほぼ完	ロクロ、口縁ヨコ	底部板状圧痕
27	E	ま 99	土師器	杯	8.35	5.8	1.4	ほぼ完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ	内面煤
28	E	ま 99	土師器	杯	(8.6)	5.0	1.6	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
29	E	ま 101	土師器	杯	9.3	4.4	2.3	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
30	E	ま 101	土師器	杯	8.75	5.1	1.9	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
31	E	ま 101	土師器	杯	(8.1)	5.1	1.6	1/4	ほぼ完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ	
32	E	検出面	土師器	杯	(8.6)	5.2	1.3	1/4	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内指ナデ	
33	E	検出面	土師器	杯	(8.5)	(5.2)	1.4	わずか	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
34	E	検出面	土師器	杯	(10.0)	(6.85)	1.7	1/5	1/8	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
35	E	検出面	土師器	杯	(8.6)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ	外面タール
36	E	遺物包含層	土師器	杯	8.05	4.3	1.5	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
37	E	遺物包含層	土師器	杯	(9.6)	4.6	2.1	1/6	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
38	E	遺物包含層	土師器	盤 B	(9.5)			1/12		ロクロ、口縁ヨコ	
39	A1tr		須恵器	杯 A		5.9			完	ロクロ、底回糸	

第 10 表　大村塚田遺跡 土器・陶磁器観察表

図No.	地区	遺構	種別	器種器形	法量（cm）			残存度		成形・調整等	備考
					口径	底径	器高	口縁	底部		
1	A	竪 5	弥生土器	壺						ナデ、内指頭圧痕	
2	A	検出面	縄文土器	深鉢						ナデ	
3	A	検出面	縄文土器	注口土器						ナデ	
4	A	検出面	土師質土器	火鉢	(26.0)			1/10		ロクロ、口縁ヨコ、内工具ナデ	
5	A	遺物包含層	縄文土器	深鉢						ナデ	
6	A	遺物包含層	縄文土器	深鉢						ナデ	内面煤
7	A	遺物包含層	縄文土器	深鉢						ナデ	
8	A	表土	縄文土器	深鉢						ナデ	輪積痕
9	A	表土	縄文土器					わずか		ナデ	内面タール
10	B	P31	土師器	甕 B						ナデ、内指頭圧痕、外タテハケ	
11	B	検出面	縄文土器	深鉢		5.4			1/2	ナデ、外・底指頭圧痕	
12	1tr		土師器	椀		(6.3)			1/4	ロクロ	
13	1tr		須恵器	杯 B	(15.0)			わずか		ロクロ、口縁ヨコ	
14	1tr		須恵器	杯蓋 B	(15.0)			1/12		ロクロ、口縁ヨコ	
15	1tr		白磁	碗	(12.0)			1/18		ロクロ、口縁ヨコ、外回転ヘラケズリ、施釉（淡青）／白	

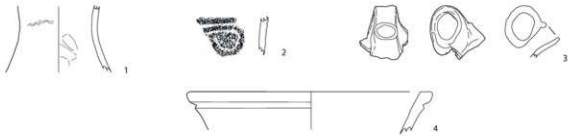
【凡例】
成形・調整等の略称は以下の通りである。
ナデ：指ナデ　ロクロ：ロクロナデ　ヨコ：ヨコナデ　回糸：回転糸切り
白磁については、施釉（釉の色）／胎土の色を表記している。なお、法量の（ ）内数値は復元した際の推定値を表す。



第 15 図　横田遺跡 土器・陶磁器

A区

竪5　　検出面



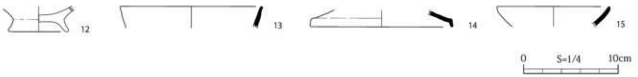
包含層

表土

B区

P31　　検出面

1トレンチ



第 16 図　大村塚田遺跡 土器・陶磁器

2　土製品

(1) 横田遺跡（第 11 表、第 17 図、写真図版 10）

今回の調査で 1 点のみ出土し図示している。出土地点・寸法等については一覧表を参照されたい。1 は泥面子の芥子面である。表面は剥離や磨滅が著しく不明瞭な部分が多いが、七福神を模したものと考えられる。背面には型を取る際の圧痕が観察される。

(2) 大村塚田遺跡（第 12 表、第 18 図、写真図版 11）

今回の調査で 1 点のみ出土し図示している。出土地点・寸法等については一覧表を参照されたい。1 は臼形を呈する耳飾である。文様はなく深い凹面を持つ。正面はなめらかに調整されており、タールのような黒色の付着物が若干認められる。時期は縄文時代晩期前葉と推定される。

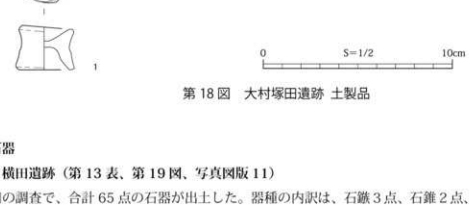
第 11 表　横田遺跡 土製品一覧表

図No.	地区	遺構	出土地点	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
1	E	表土		泥面子	<3.35>	<2.2>	<0.8>	4.3	

＜　＞：残存値

第 12 表　大村塚田遺跡 土製品一覧表

図No.	地区	遺構	出土地点	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
1	2tr	検出面		耳飾	2.3	3.1	7.0	13.1	正面 4 分の 1 程度欠損



第 17 図　横田遺跡 土製品

第 18 図　大村塚田遺跡 土製品

3　石器

(1) 横田遺跡（第 13 表、第 19 図、写真図版 11）

今回の調査で、合計 65 点の石器が出土した。器種の内訳は、石鏃 3 点、石錐 2 点、削器 1 点、掻器 2 点、横刃形石器 2 点、打製石斧 11 点、凹石 1 点、二次加工ある剥片 1 点、微細剥離ある剥片 5 点、剥片 37 点がある。このうち遺存状態のよい定型石器を中心に 4 点を図示し、概要を述べる。それ以外のものは一覧表を参照されたい。石器の帰属時期は共伴する土器に準じるものと考えられる。

石鏃（1・2） 1・2とも、無茎凹基鏃で、基部の抉りは浅い。1は、黒曜石製で、先端は鈍い。片逆刺に欠損が見られる。2は、チャート製で、尖頭部に欠損が見られる。

石錐（3） 3は、黒曜石製で、平面形は棒状。錐部の断面形は円形で、先端は欠損している。両面に加工が施されているが、基部の加工は錐部に比べると少ない。錐部には使用による磨滅痕が見られる。

打製石斧（4） 4は、頁岩製の打製石斧で、完形である。反りがなく、平面形は胴部がやや膨らんだ撥形を呈する。両面に被熱痕があり、裏面は刃部と基部と側縁の一部のみが加工され、ほとんどの部分で自然面が見られる。刃部は急角度の斜刃で、刃縁には磨滅痕が観察される。

⑵ 大村塚田遺跡（第14表、第20図、写真図版11）

今回の調査で、合計36点の石器が出土した。器種の内訳は、石鏃1点、削器5点、掻器1点、砥石2点、凹石1点、楔形石器1点、微細剥離ある剥片3点、剥片19点、原石2点、不明品1点がある。このうち遺存状態のよい定型石器を中心に2点を図示し、概要を述べる。それ以外のものは一覧表を参照されたい。石器の帰属時期は共伴する土器に準じるものと考えられる。

石鏃（1） 1は、黒曜石製の無茎凹基鏃で、基部の抉りは深い。尖頭部先端が欠損している。

凹石（2） 2は、石材は砂岩で、平面形が楕円の自然礫を素材にしている。使用や加工による大きな形状の変化は見られない。表面中央部に直径7.54cm、深さ2.07cmの比較的大きい凹部をもち、つき臼の可能性が考えられる。

第13表　横田遺跡 石器一覧表

図版	ID	地区	遺構	出土地点	器種	石材	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	破損状況	備考
	1	A	検出面	北側	剥片	黒曜石	2.75	2.72	0.71	2.1	完形	縦長剥片
	2	A	検出面		打製石斧	泥岩	(13.35)	(7.60)	(2.50)	(299.3)	基部欠	斜刃（急）、側縁形撥形、反りなし、自然面残存、刃部・刃縁に磨滅痕
	3	A	検出面		微細剥離ある剥片か	黒曜石	1.46	1.84	1.09	2.8	完形	横長剥片、微細剥離位置側縁、自然面なし
	4	B	検出面	ベルト	剥片	チャート	2.39	3.27	0.67	5.1	完形	
	5	B	検出面	ベルト	剥片	黒曜石	1.64	1.76	0.25	0.7	完形	
	6	B	検出面	ベルト	剥片	チャート	1.50	2.63	0.62	2.1	完形	
	7	B	検出面	北西	剥片	チャート	1.67	1.32	1.09	1.2	完形	
	8	B	検出面	北東	剥片	黒曜石	1.65	0.81	0.77	0.8	完形	縦長剥片
	9	B	検出面	南東	剥片	黒曜石	1.57	1.96	0.60	1.4	完形	不定形剥片
	10	B	検出面	北西	剥片	チャート	3.40	5.77	1.17	19.3	完形	横長剥片
	11	B	検出面	ベルト	打製石斧	砂岩	(14.35)	(11.15)	(4.10)	(788.0)	基部欠	円刃（急）、側縁形撥形、反りなし、自然面残存、刃部・刃縁に磨滅痕
	12	B	検出面	北東	削器	黒曜石	2.00	3.59	1.28	7.6	完形	横長剥片、両面加工、加工部位1側縁・末端、内湾刃、抉り・敲痕なし。刃長1.22cm・1.68cm、刃角30-60°
	13	B	検出面	北東	打製石斧	頁岩	(4.35)	(4.25)	(1.29)	(32.2)	下半欠	側縁形撥形か
	14	B	検出面	北東	打製石斧	頁岩	(4.06)	(3.48)	(1.31)	(16.4)	下半欠	側縁形撥形か
	15	B	検出面	北東	打製石斧	頁岩	(4.88)	(4.26)	(1.43)	(33.2)	下半欠	
4	16	B	検出面	南東	打製石斧	頁岩	13.70	4.73	2.67	180.0	完形	斜刃（急）、側縁形撥形、反りなし、自然面残存、刃縁に磨滅痕、被熱
	17	B	検出面	南東	横刃形石器	頁岩	8.53	5.46	1.32	53.0	完形	縦長剥片、片面加工
	18	B	検出面		打製石斧	頁岩	(10.72)	(6.01)	(2.70)	(195.8)	刃部欠	側縁形短撥形
	19	B	検出面		微細剥離ある剥片	黒曜石	2.32	1.47	0.72	1.9	完形	縦長剥片、微細剥離位置側縁、自然面なし
	20	B	検出面		横刃形石器	砂岩	(8.79)	3.07	1.23	(32.3)	刃部一部欠	
	21	B	ST3		剥片	珪質頁岩	5.01	4.88	1.20	18.2	完形	
	22	B	ST3		剥片	黒曜石	1.63	1.94	0.62	1.2	完形	
	23	B	ST5		微細剥離ある剥片	黒曜石	3.68	1.88	0.34	1.5	完形	縦長剥片、微細剥離位置側縁、自然面なし
	24	D	土73		打製石斧	頁岩	(9.27)	(7.51)	(2.41)	(223.5)	下半欠	側縁形短撥形
	25	D	検出面		剥片	黒曜石	1.42	1.53	6.00	0.8	完形	不定形剥片
	26	D	検出面	東	剥片	チャート	(3.87)	(4.47)	(1.01)	(17.3)	1/2欠	不定形剥片
	27	D	検出面	東区	二次加工ある剥片	黒曜石	3.86	1.13	0.75	1.7	完形	縦長剥片、腹面から加工、加工部位1側縁
	28	D	検出面	一括	剥片	黒曜石	1.55	0.92	0.34	0.4	完形	
	29	D	検出面	北東部	剥片	チャート	2.58	4.03	1.29	7.4	完形	横長剥片

図No.	ID	地区	遺構	出土地点	器種	石材	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	破損状況	備考
	30	D	検出面	北東部	剥片	黒曜石	1.76	1.04	0.27	0.4	完形	
	31	D	トレンチ	西区	剥片	黒曜石	2.50	1.39	1.26	3.5	完形	
	32	D	ST44	東ベルト	打製石斧	頁岩	(8.44)	(5.74)	(2.92)	(147.1)	下半欠	側縁形撥形か
	33	D	ST47		微細剥離ある剥片	黒曜石	(1.54)	(1.76)	(4.40)	(1.0)	1 側縁欠	不定形剥片、微細剥離位置打面・側縁、自然面なし
	34	E	4 住	北西	剥片	チャート	2.79	3.31	1.06	9.3	完形	
	35	E	竪 10	北東	剥片	黒曜石	1.65	0.87	0.21	0.2	完形	
	36	E	竪 10	東	掻器	黒曜石	2.03	2.64	0.99	5.6	完形	不定形剥片、両面加工、加工部位 2 側縁・末端、直刃、抉り・敲痕なし、刃長 1.26cm・2.39cm・1.16cm、刃角 60-90°
	37	E	竪 10		打製石斧か	砂岩	13.85	5.18	3.15	228.9	完形	円刃（急）、側縁形分離形か、反りなし、自然面残存、線条痕様部にあり、粗割り整形のみ
	38	E	遺物包含層		剥片	チャート	(1.53)	(0.88)	(0.44)	(0.8)	2 側縁欠	
	39	E	遺物包含層		剥片	黒曜石	1.72	2.65	0.85	3.4	完形	横長剥片
	40	E	遺物包含層		打製石斧か	砂岩	(6.05)	(3.52)	(1.36)	(27.0)	基部欠	円刃（急）、側縁形短冊形、反りなし、自然面なし
1	41	E	検出面	北東	石鏃	黒曜石	(1.29)	(1.17)	(0.30)	(0.3)	片逆刺欠	無茎凹基（抉り浅い、逆刺鋭い）、側辺（敲痕なし、最大幅下端）、先端鋭い
2	42	E	検出面	南東	石鏃	チャート	(1.75)	1.96	(0.38)	(1.1)	尖頭部欠	無茎凹基（抉り浅い、逆刺鋭い）、側辺（敲痕なし、最大幅下端）
	43	E	検出面	南東	剥片	黒曜石	2.81	1.17	0.89	3.3	完形	
	44	E	検出面	南西	剥片	黒曜石	1.36	1.67	3.50	0.6	完形	
	45	E	検出面	北西	剥片	黒曜石	1.16	1.46	1.11	0.8	完形	
	46	E	表土		掻器	黒曜石	1.70	2.45	0.82	2.7	完形	横長剥片、両面加工、加工部位末端、直刃、抉り・敲痕なし、刃長 1.22cm、刃角 60-90°
	47	Itr	流路 7		剥片	黒曜石	1.56	1.29	0.29	0.6	完形	
	48	Itr	流路 7		剥片	チャート	2.18	4.09	0.97	6.8	完形	
	49	Itr	流路 7		微細剥離ある剥片	黒曜石	2.86	1.10	9.70	1.9	完形	縦長剥片、微細剥離側縁
3	50	Itr	流路 7		石錐	黒曜石	(2.31)	1.14	0.61	(1.3)	先端部欠	平面形棒状、錐部断面形円形、加工部位両面加工（錐部とわずかに基部）、錐部に磨滅痕
	51	Itr	流路 7		石鏃か	黒曜石	(1.72)	(1.14)	(3.00)	(0.5)	尖頭部以外欠か	先端鋭い
	52	Itr	流路 7		剥片	黒曜石	3.54	2.09	1.71	9.1	完形	
	53	Itr	流路 7		剥片	黒曜石	1.10	1.52	0.41	0.5	完形	
	54	Itr	流路 7		剥片	黒曜石	1.02	1.23	0.25	0.3	完形	
	55	Itr	流路 7		石鏃か	黒曜石	(2.45)	(2.70)	(0.72)	(3.3)	錐部先端欠	つまみ部剥離
	56	Itr	流路 7		剥片	黒曜石	1.81	1.86	0.66	2.0	完形	
	57	Itr	検出面		剥片	チャート	4.82	3.12	1.18	16.8	完形	
	58	Itr	検出面		剥片	黒曜石	1.32	0.89	0.28	0.1	完形	
	59	Itr			剥片	黒曜石	2.54	3.43	0.89	6.6	完形	横長剥片
	60	Itr			剥片	黒曜石	1.66	1.48	0.36	0.7	完形	
	61	Itr			剥片	黒曜石	1.63	2.22	0.37	1.1	完形	
	62	C1tr			剥片	黒曜石	1.52	1.20	0.33	0.5	完形	
	63	C1tr			剥片	黒曜石	2.70	1.71	0.61	3.2	完形	
	64	C2tr			剥片	黒曜石	2.73	1.76	0.67	2.2	完形	
	65		排土		凹石	砂岩	14.95	17.05	9.35	3530.0	完形	

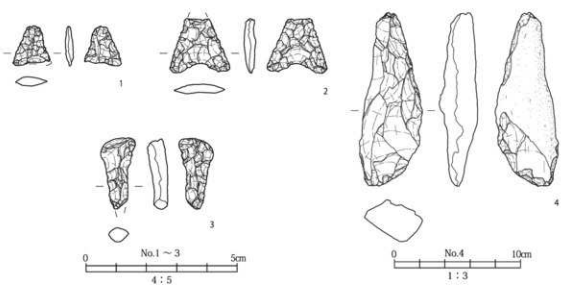
※（ ）内数値は残存値を表す。
※ 1,200g 未満は 0.1g 単位、1,200g 以上は 5g 単位。

第 14 表　大村塚田遺跡 石器一覧表

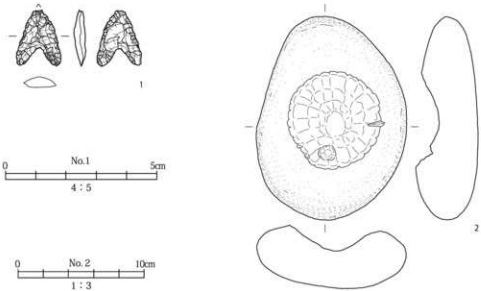
図No.	ID	地区	遺構	出土地点	器種	石材	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	破損状況	備考
	1	A	P5		削器	黒曜石	4.05	2.06	0.82	5.0	完形	縦長剥片、両面加工、加工部位 1 側縁、直刃、抉りあり、刃長 3.2cm、刃角 30-60°
	2	A	遺物包含層		敲石	砂岩	15.14	4.85	3.02	345.0	完形	平面形長方形、断面不定形、敲面 4、荒敲
	3	A	遺物包含層		剥片	黒曜石	(1.77)	(1.70)	(1.03)	(1.9)	1 辺折れ	
	4	A	遺物包含層		剥片	黒曜石	1.68	1.32	0.57	0.6	完形	
2	5	A	遺物包含層		凹石	砂岩	16.10	11.80	5.15	1076.0	完形	平面形楕円形、断面形楕円形、凹部（表面 1、円形、φ 7.54cm、深さ 2.07cm）、つき目の可能性あり
	6	A	遺物包含層		剥片	黒曜石	1.07	0.84	0.24	0.2	完形	
	7	A	検出面	北東	剥片	黒曜石	(2.46)	(2.60)	(0.40)	(1.2)	1 辺折れ	
	8	A	検出面	北東	剥片	黒曜石	1.58	1.08	0.32	0.5	完形	
	9	A	検出面	北東	剥片	黒曜石	1.44	1.84	0.66	1.4	完形	
	10	A	検出面	北東	剥片	黒曜石	2.33	1.60	0.98	2.3	完形	
1	11	A	検出面	北東	石鏃	黒曜石	(1.79)	1.45	0.36	(0.6)	尖頭部先端欠損	無茎凹基、抉り深い、逆刺鋭い、最大幅下方

図No.	ID	地区	遺構	出土地点	器種	石材	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	破損状況	備考
	12	A	検出面	北東	剥片	黒曜石	1.46	1.33	0.61	1.0	完形	
	13	A	検出面	南東	砥石	砂岩	(6.95)	(8.35)	(1.99)	(185.1)	1/2 欠	平面形楕円形、断面形扁平な楕円形、砥面1、荒砥
	14	A	検出面	南東	剥片	チャート	3.41	2.22	0.63	3.6	完形	縁長剥片
	15	A	検出面	南西	原石	赤玉	2.95	2.18	2.31	16.5	完形	搬入品か（松本にはない種類、新潟にある）
	16	A	検出面	南西	剥片	チャート	(2.55)	(3.08)	(0.91)	(6.1)	1/2 欠	
	17	A	検出面	南西	削器	黒曜石	2.91	1.73	0.81	2.8	完形	縁長剥片、両面加工、加工部位1側縁、外湾刃、抉りあり、刃長2.35、刃角30-60°
	18	A	検出面	南西	剥片	黒曜石	1.26	2.37	1.86	4.6	完形	
	19	A	検出面	南西	剥片	黒曜石	1.19	1.67	1.37	2.3	完形	
	20	A	検出面	南西	掻器	黒曜石	2.89	3.06	0.87	5.7	完形	不定形、片面加工、加工部位末端
	21	A	検出面	南西	微細剥離ある剥片	黒曜石	2.29	1.30	0.84	1.4	完形	縁長剥片、微細剥離位置側縁、自然面なし
	22	A	検出面	南西	剥片	黒曜石	1.98	1.22	5.30	1.0	完形	
	23	A	検出面	南西	微細剥離ある剥片	黒曜石	2.09	0.78	0.69	0.9	完形	縁長剥片、微細剥離位置末端、自然面なし
	24	A	検出面	南西	原石	黒曜石	2.88	2.33	1.84	11.8	完形	
	25	A	検出面	南西	削器	チャート	(4.02)	(5.22)	1.19	(18.0)	1/3 欠	横長剥片、両面加工、加工部位2側縁・打面、外湾刃、抉り2カ所、敲痕なし、刃長3.33cm・2.39cm・1.15cm、刃角0-30°
	26	A	検出面	南西	微細剥離ある剥片	黒曜石	1.65	1.57	0.68	1.2	完形	不定形剥片、微細剥離位置側縁、自然面なし
	27	A	検出面	南西	剥片	黒曜石	1.41	1.27	0.25	0.3	完形	
	28	A	検出面	南西	不明	黒曜石	(1.01)	(0.77)	(0.28)	(0.2)	3/4 以上欠	破損が大きく全体形不明、押圧剥離痕あり
	29	A	検出面	南西	削器	黒曜石	2.14	2.20	6.20	2.4	完形	不定形剥片、両面加工、加工部位1側縁、直刃、抉り・敲痕なし、刃長1.35cm、刃角0-30°
	30	A	検出面	北西	楔形石器	黒曜石	2.50	2.04	0.91	4.6	完形	
	31	A	表土		剥片	黒曜石	1.47	0.96	0.40	0.4	完形	
	32	B	検出面	南西	剥片	黒曜石	(1.74)	(1.37)	(0.54)	(1.3)	1 側縁欠	
	33	1tr	遺物包含層		剥片	黒曜石	0.62	0.96	0.37	0.2	完形	
	34	1tr	遺物包含層		剥片	黒曜石	0.73	0.86	0.15	0.1	完形	
	35	2tr	遺物包含層		剥片	黒曜石	2.08	1.78	0.53	0.9	完形	
	36	4tr	検出面		削器	黒曜石	(2.84)	(2.46)	(1.45)	(5.9)	2 側縁欠	腹面から加工、加工部位1側縁、内湾刃、抉り・敲痕なし、刃長1.58cm、刃角0-30°

※（　）内数値は残存値を表す。
※1,200g 未満は 0.1g 単位、1,200g 以上は 5g 単位。



第 19 図　横田遺跡 石器



第 20 図　大村塚田遺跡 石器

4　金属製品

⑴　横田遺跡（第 15 表、第 21 図、写真図版 11）

金属製品が 4 点、銭貨が 1 点出土している。内訳は鉄製品 2 点、銅製品 1 点、その他 1 点、銭貨 1 点である。その他、鉄滓が 147.0g 出土している。これらの出土地点・器種・寸法等については一覧表を参照されたい。器種は鉄製品が刀子、その他が不明品、銭貨であり、そのうち 4 点の図示・拓本を掲載している。遺物の記載にあたっては図番号を使用している。また、遺物の形状や構造については、X 線撮影を行っていないため、目視による現状を記載している。

ア　鉄製品

刀子（1・2）　1 は両端を欠損する。錆化により関の有無は不明であるが、現状では刃側の茎部から身部に向かってやや直線的に開くようである。断面は長三角形を呈し、刃側の端部は鋭利である。2 は身部と茎部の境が不明であるが、身部へ向かうにつれ徐々に緩く開いていく。切先を損じているが間もなく収束するとみられ、身部が比較的短くなる可能性が高い。

イ　その他

不明品（3）　金属種別・器種ともに不明の製品である。ID 6 - 1 から 6 - 9 までは同一個体であるが、風化が著しく取り上げに伴って細片となってしまった。破片のうち比較的残存状況の良いものを 2 点図示している。出土段階ではほぼ正円形にまわるリング状であることが確認されている。平面形では三カ所でかもめ状に屈曲しており、全体で 5 単位ほどあるものと推定される。断面は隅丸の扁平な長方形であり、外縁側は端部を有しており、わずかな稜が認められる。内縁側は「く」の字状に下方に折れ曲がる形状であるが、残存部が少ないためどの程度まで続くのかは不明である。表面は灰白色、断面は灰色を呈する。輪花を想起させる形状から、宗教的な性格を持つことが想定される。

ウ　銭貨

銅銭（4）　1 点のみ出土している。4 はほぼ完形の開元通宝である。

⑵　大村塚田遺跡（第 16 表、第 22 図、写真図版 11）

金属製品は鉄製品が 2 点出土している。器種は釘・不明品であり、そのうち 1 点のみ図示している。これ

らの出土地点・器種・寸法等については一覧表を参照されたい。遺物の記載にあたっては図番号を使用している。また、遺物の形状や構造については、X線撮影を行っていないため、目視による現状を記載している。

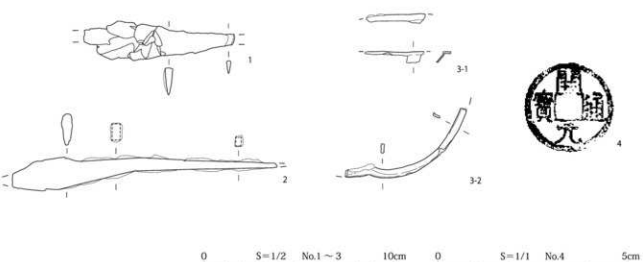
釘（1） 先端部付近のみ残存している状態のため、寸法は不明である。断面は長方形を呈し、緩くS字状に湾曲する。

第 15 表　横田遺跡 金属製品一覧表

図No	ID	地区	遺構	出土地点	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	金属種別	備考
	1	A	検出面		不明	34.1	4.0	3.2	2.4	Cu	金具類の一部か
4	2	C	トレンチ		開元通宝	24.4	24.3	1.4	2.6	Cu	初鋳 621 年
1	3	E	検出面	南	刀子	79.6	20.3	4.7	11.5	Fe	
	4	E	竪 10	中央西	滓	-	-	-	147.0		
2	5	E	遺物包含層	№ 11	刀子か	140.6	18.5	8.6	16.7	Fe	
3-2	6-1	E	遺物包含層	№ 05	不明	66.8	4.8	1.6	3.9	不明	輪花状
	6-2	E	遺物包含層	№ 05	不明	-	-	-	1.4	不明	
	6-3	E	遺物包含層	№ 05	不明	-	-	-	0.2	不明	
	6-4	E	遺物包含層	№ 05	不明	-	-	-	2.1	不明	
	6-5	E	遺物包含層	№ 05	不明	-	-	-	1.3	不明	
3-1	6-6	E	遺物包含層	№ 05	不明	31.5	3.2	5.8	1.5	不明	
	6-7	E	遺物包含層	№ 05	不明	-	-	-	4.1	不明	
	6-8	E	遺物包含層	№ 05	不明	-	-	-	0.5	不明	
	6-9	E	遺物包含層	№ 05	不明	-	-	-	0.2	不明	

第 16 表　大村塚田遺跡 金属製品一覧表

図No	ID	地区	遺構	出土地点	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	金属種別	備考
	1	1tr			不明	47.8	20.3	7.0	19.6	Fe	板状製品／錆化・破損甚しい
1	2	1tr			釘	42.0	7.5	4.7	2.2	Fe	



第 21 図　横田遺跡 金属製品

第 22 図　大村塚田遺跡 金属製品

第Ⅳ章　総括

今回の発掘調査は、横田遺跡・大村塚田遺跡・惣社遺跡の３遺跡を対象として計画し開始した。その後の遺構・遺物の検出状況から、事業対象地は惣社遺跡の範囲外と判断し、横田遺跡・大村塚田遺跡の２遺跡の調査となった。本章では両遺跡を概観し、総括としたい。

１　横田遺跡

今回の調査は３回目である。遺跡の北側で実施された第１・２次調査は、いずれも調査面積が300㎡未満と小規模で、遺構の検出はなく、これまでに時代や性格は不明であった。

今回の調査地は、遺跡全体の北東端部にあたり、土坑・ピットを主として、少数の竪穴住居址、竪穴建物址等が検出された。遺構の密度は低く、集落外縁部の状況を示していた。また、広範囲に北から南、北東から南西方向の洪水性の氾濫を受けた痕跡が多数重複して確認された。集落の中心は不明であるが、これまでにＣ区北端部の西端から約200m西に建つ現横田公民館一帯で多数の遺物の散布が認められる。

縄文時代の遺構は、２軒の竪穴住居址がＤ区にある。中期後葉の第２号住居址は、埋没後に洪水性の氾濫を受けて床面下まで削り取られ、置換した砂礫に覆われた状況が確認された。その東20mにある第１号住居址は、洪水の直接的な影響を受けずに遺存していた。この２軒以外にも氾濫によって喪失した遺構が存在した可能性もあるが、詳細は不明である。

古代の遺構は、調査地北側のＥ区中央部に多い。平安時代後期と推定される竪穴住居址４軒や土坑等の比較的大きな遺構が重複して検出されたことから、集落外縁部の小規模な居住域であった可能性がある。遺構はこの一帯を除き、散在しており、今回の調査により、集落北東端部の遺構のあり方を知ることができた。

特筆される遺物には、平安時代後期のＥ区竪10から出土した定窯系白磁の可能性がある破片、同区包含層出土の金属製の輪花状不明品がある。いずれも残存状況は良くないが、集落址の出土例として注目される。

２　大村塚田遺跡

今回で３回目の調査である。第１次調査地点は遺跡の中央部～南西部にあたり、遺跡の中心部と推定される。地理的には湯川水系の大六川と藤井沢に挟まれた沖積地である。調査の結果、縄文時代中期後半の46軒の竪穴住居址を確認し、本遺跡は同期を中心とする大規模集落と判明している。松本地域の同期の集落遺跡は、東山・西山の山麓域を中心に分布していることが知られているが、沖積地に立地する大規模集落は、本遺跡のほかに神林の川西開田遺跡などがあり、注目される。

今回の調査地は遺跡の南西部にあたる。大六川の西側右岸にあり、第１次調査地点では見られなかった北から南方向の洪水性氾濫の痕跡が広範囲に確認された。西流する湯川水系の影響は少ない。遺構は４軒の竪穴建物址、土坑・ピット等が散在して検出されたが、時代が推定されたものはない。洪水性の堆積物の影響により明確ではないが、遺構の密度は低く、今回の調査地は、遺跡の南西端部である可能性が高い。今回の調査によって、大村塚田遺跡の集落南西端部の遺構のあり方を知ることができた。

本遺跡の周辺には、本報告の横田遺跡のほかに惣社遺跡、大輔原遺跡、宮北遺跡、里山辺下原遺跡など比較的大規模な奈良・平安時代の集落址が連なるように広がり、集落群を形成している。今回もこの時代の明確な遺構・遺物はほとんど検出されていない。調査地一帯は永らく氾濫原であったと推定され、治水が困難であった時代には、居住域としての開発を避けた可能性もある。

最後に本調査に際し多大なるご協力とご理解をいただいた松本市惣社土地区画整理組合並びに関係機関、横田第５町会・惣社３丁目町会をはじめとする地元の方々、作業に従事していただいた皆様に感謝の意を表して本書の締めくくりとしたい。

調査地遠景（南から）

調査地遠景 （東から）

横田遺跡　A区全景（北が上）

横田遺跡　C区全景（南が上）

横田遺跡　D区（東）全景（南が上）

横田遺跡　D区（西）全景（南が上）

写真図版４

横田遺跡　Ｅ区全景（東が上）

横田遺跡　１tr 全景（南が上）

横田遺跡　Ａ１・２tr、Ｂ２・３tr 全景（南が上）

横田遺跡　１住 完掘状況（南から）

横田遺跡　１住 炉 検出状況（南から）

横田遺跡　2住 が 検出状況（北から）

横田遺跡　3住 完掘状況（南から）

横田遺跡　E区 竪穴住居址、竪穴建物址（東が上）

横田遺跡　4住 完掘状況（東から）

横田遺跡　5住 完掘状況（西から）

写真図版 6

横田遺跡　6住 完掘状況（南から）

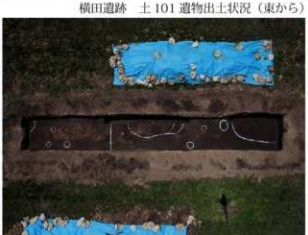
横田遺跡　竪 10 完掘状況（南から）

横田遺跡　土 34 完掘状況（東から）

横田遺跡　土 77 遺物出土状況（南西から）

横田遺跡　土 101 遺物出土状況（東から）

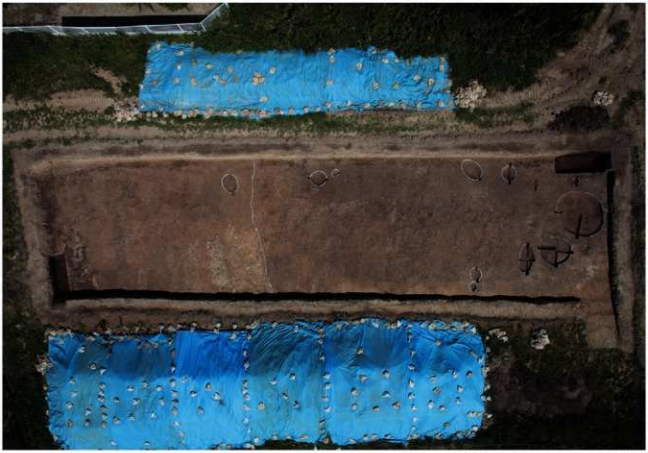
横田遺跡　金属製品（3）出土状況（南から）



大村塚田遺跡　1 tr 全景（南が上）

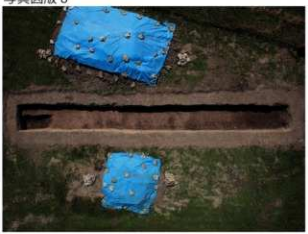
大村塚田遺跡　2 tr 全景（南が上）

大村塚田遺跡　A区全景（北が上）



大村塚田遺跡　B区全景（北が上）

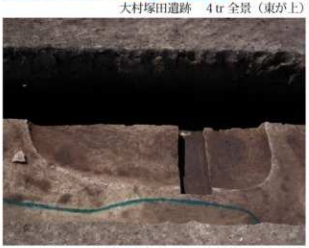
写真図版 8



大村塚田遺跡　3 tr 全景（南が上）

大村塚田遺跡　4 tr 全景（東が上）

大村塚田遺跡　竪 5 完掘状況（南から）



大村塚田遺跡　竪 6 完掘状況（北から）

大村塚田遺跡　竪 7 完掘状況（北から）

大村塚田遺跡　竪 8 完掘状況（東から）

横田遺跡　縄文土器　有孔鍔付土器（2）

横田遺跡　縄文土器　注口土器（7）

横田遺跡　縄文土器　S=1/2

横田遺跡　古代の土器

横田遺跡　白磁 碗 or 鉢（21）S=1/1

大村塚田遺跡　縄文土器 注口土器（3）

大村塚田遺跡　縄文土器　S=1/2

大村塚田遺跡　弥生土器 壺（1）

大村塚田遺跡　古代の土器

大村塚田遺跡　白磁 碗（15）S=1/1

横田遺跡　土製品（1）S=1/1

大村塚田遺跡　土製品（1）

横田遺跡　石器 石鏃（1・2）、 石錐（3）S=4/5

横田遺跡　石器 打製石斧（4）S=1/3

大村塚田遺跡　石器 石鏃（1）S=4/5

大村塚田遺跡　石器 凹石（2）S=1/3

横田遺跡　金属製品①

横田遺跡　金属製品②

大村塚田遺跡　金属製品（1）

報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとし　よこたいせき　だい３じはっくつちょうさほうこくしょ・おおむらつかだいせき　だい３じはっくつちょうさほうこくしょ
書名	長野県松本市　横田遺跡　第３次発掘調査報告書・大村塚田遺跡　第３次発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	松本市文化財調査報告
シリーズ番号	№235
編著者名	小山奈津実、白鳥文彦、古林舞香、壬生量子、三村竜一、山本紀之
編集機関	松本市教育委員会
所在地	〒390-8620　松本市丸の内３番７号　TEL 0263-34-3000（代） （記録・資料保管：松本市立考古博物館　松本市中山3738番地１　TEL 0263-86-4710）
発行年月日	2020（令和２年）年３月27日（令和元年度）

ふりがな	ふりがな	コード						
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
横田（よこた）	長野県松本市大字横田（ながのけんまつもとしおおあざよこた）三丁目193番１号ほか	20202	80	36度14分42秒	137度59分16秒	2016年９月１日～2017年９月29日	2,450㎡	松本市惣社土地区画整理事業
大村塚田（おおむらつかだ）			81	36度14分43秒	137度59分20秒		1,194㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
横田	集落跡	縄文・平安	竪穴住居址：６軒 竪穴建物址：２軒 土坑：84基 ピット：176基 流路：７条	〔土器・陶磁器〕縄文土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、白磁 〔土製品〕泥面子 〔石器〕石鏃、石錐、削器、掻器、横刃形石器、打製石斧、凹石 〔金属製品〕刀子、銭貨	
大村塚田	集落跡	縄文・弥生・平安	竪穴建物址：４軒 土坑：７基 ピット：34基 流路：４条	〔土器・陶磁器〕縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、白磁 〔土製品〕耳飾 〔石器〕石鏃、削器、掻器、砥石、凹石、楔形石器 〔金属製品〕釘	

要約

・松本市惣社土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査として実施した。

・横田遺跡は今回の調査で初めて竪穴住居址が確認された。時期は縄文時代中期後葉と平安時代後期の２時期があるとみられる。

・大村塚田遺跡は、竪穴住居址は確認されていないが、縄文・弥生・平安時代の遺物が出土した。これまでの成果も含めて検討すると、今回の調査地は本遺跡の端部と推定される。

・今回の調査により、本遺跡及び本郷地区の集落の様相を考えるうえで重要な資料が得られた。

松本市文化財調査報告　№235

長野県松本市

横　田　遺　跡

－第３次発掘調査報告書－

大　村　塚　田　遺　跡

－第３次発掘調査報告書－

発行日　令和２年３月27日

発行者　松本市教育委員会

〒390-8620

長野県松本市丸の内３番７号

印　刷　株式会社 二光印刷